

TDCG

東京歯科大学同窓会会報

1981年2月 第199号

目 次

|               |       |
|---------------|-------|
| 巻頭言           | 1     |
| お知らせ          | 2～3   |
| 新年交歓会開催される    | 4     |
| 年頭所感          | 5～6   |
| 本部短信          | 7     |
| 故入江義次先生を悼む    | 8～9   |
| 逝去会員          | 9     |
| 学術会議会員に山本先生再選 | 10    |
| 母校だより         | 11～15 |
| 北から南から        | 16    |
| 支部のうごき        | 17～19 |
| クラス会だより       | 20～27 |
| すいどうばし        | 28～32 |
| へんしゅうこうき      | 33    |

# 巻頭言

## 母校の発展を願って

会長 河邊 清 治

我が国の歯科医学教育史上最も古い母校の歴史を私の目でふりかえってみますと、大正12年の関東大震災により校舎ならびに施設を全焼し、これを復興精神に燃えた母校と同窓会の協力により、昭和4年に当時としては建築面でも専門施設の面においても東洋一と称された現在の水道橋本館が完成したという大いなる足跡が残されています。

そして半世紀余りの年月が過ぎ、その間母校は専門学校より大学となり、近代歯科医学の教育の場として水道橋では次第に手狭となり、東京歯科大学法人においては一大決意をもって、千葉にキャンパスを移転する事になったことはすでに会員の皆様も御承知のとおりであります。

これに対し大学は世界各国に教授陣を派遣して調査し、今や世界に誇り得る大キャンパスが開校91周年を迎える本年完成することになりました事を同窓会員一同と共に喜ぶものであります。

この母校の発展に対し同窓会では井上名誉会長が会長時代に発足された同窓会創立80周年を記念しての募金事業も、今一步でその達成がなされようとしております。

どうか会員の皆様におかれましては、これを本年度の前半をもちまして達成し同窓会史上に新なる足跡を残されん事をせつに願う次第であります。

# お知らせ

## ○ TDC卒後研修セミナー '81プログラム

総合的な視点にたった歯科診療  
加齢への対応〔Ⅱ〕

### ◇第2回〔昭和56年2月21日(土)〕

- |             |                      |                  |
|-------------|----------------------|------------------|
| 9:30~12:20  | 4. 咬合の加齢変化への対応       | 井上 昌幸 (医歯大・歯・補綴) |
|             | 5. 加齢変化に対応して修復補綴を考える |                  |
| 13:20~14:50 | (1) 保存修復の立場から        | 石川 達也 (東歯大・保存)   |
| 15:00~16:30 | (2) 歯冠補綴の立場から        | 羽賀 通夫 (東歯大・補綴)   |

### ◇第3回〔昭和56年3月28日(土)〕

#### §2. 加齢変化に対応する診療計画

- |             |                        |                  |
|-------------|------------------------|------------------|
| 9:30~11:30  | 1. 患者の年齢を考える           | 有川 清康 (住友生命・医務部) |
| 12:30~14:40 | 2. 総合診療計画の考えかた         | 阪 初彦 (埼玉県・開業)    |
| 14:50~16:30 | 3. イニシャルプレパレーションの臨床的意義 | 安部 井寿人 (東京都・開業)  |

### ◇第4回〔昭和56年4月18日(土)〕

- |             |                 |                |
|-------------|-----------------|----------------|
| 9:30~11:00  | 4. 修復歯の予後をどう読むか | 石川 達也 (東歯大・保存) |
| 11:00~12:30 | 5. 抜歯か保存か       | 国島 康夫 (東京都・開業) |
| 13:30~16:30 | 6. 処置方針の具体例     | 鈴木 文雄 (千葉県・開業) |

### ◇第5回〔昭和56年5月23日(土)〕

#### §3. 加齢変化に対応した術後経過の分析

- |             |                                   |                  |
|-------------|-----------------------------------|------------------|
| 9:30~11:00  | 1. クラウンをとりまく諸問題                   | 山口 明弥 (昭和大・歯・補綴) |
| 11:00~12:30 | 2. クラウン・ブリッジの経過から                 | 菅野 博康 (宮城県・開業)   |
| 13:30~16:30 | 3. 加齢変化は予測ができるのか<br>— 術後経過の分析から — | 金子 一芳 (東京都・開業)   |

### ◇第6回〔昭和56年6月20日(土)〕

- |             |                          |                 |
|-------------|--------------------------|-----------------|
| 9:30~11:00  | 4. 少数歯残存症例への対応から         | 松元 誠 (医歯大・歯・補綴) |
| 11:00~12:30 | 5. パーシャルデンチャーの経過から       | 鈴木 尚 (東京都・開業)   |
| 13:30~16:30 | 6. ペリオの問題をかかえたパーシャルデンチャー | 片山 恒夫 (大阪府・開業)  |

### ◇第7回〔昭和56年7月11日(土)〕

- |             |                           |                    |
|-------------|---------------------------|--------------------|
| 9:30~11:50  | 7. 細胞・組織も“とし”をとるのか—老化の生物学 | 能村 哲郎 (埼玉大・理・生体制御) |
| 12:50~15:50 | 8. 修復処置の期待と結果のくいちがいから     | 山下 敦 (岡山大・歯・補綴)    |
| 16:00~16:30 | ◇ '81まとめと '82の展望          | 卒後研修特別委員会          |
|             | ◇ 受講証の授与, 会長挨拶            |                    |

ところ 経団連会館14階経団連ホール

(地下鉄丸の内線・千代田線・東西線大手町駅, 国電東京駅下車)

## ○ 第212回東京歯科大学学会例会

と き 昭和55年3月7日(土) 午前9時～午後4時30分

と ころ 東京歯科大学

講 演 午前 一般講演

午後 一般講演および示説

なお、当日は歯科医療関係商社の展示即売会を併催いたします。

## ○ 第86回東京歯科大学卒業証書授与式

と き 昭和56年3月14日(土) 午後1時30分

と ころ 東京歯科大学中央ホール(水道橋)

## ○ 第29回東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒業証書授与式

と き 昭和56年3月25日(水) 午後1時30分

と ころ 東京歯科大学(水道橋)

## ○ 第9回進学指導セミナー

と き &lt;Aクラス&gt; 昭和56年7月25日(土)～8月9日(日)(16日間)

&lt;Bクラス&gt; 昭和56年8月1日(土)～8月2日(日)(2日間)

受講料 &lt;A&gt; 95,000円(テキスト・昼食費を含む)

&lt;B&gt; 20,000円(同 上)

定 員 &lt;A&gt; 150名 &lt;B&gt; 110名

施設の都合上、先着順に上記の定員で締切ります。

応募期限 昭和56年3月31日

なお、詳細については会報同封の募集要項をご覧ください。

## ○ 昭和56年度東京歯科大学同窓会評議員会・総会・懇親会

と き 昭和56年11月6日(金)

## ○ 東京歯科大学記念行事

千葉校舎竣工式ならびに祝賀会

と き 昭和56年11月7日(土)

## ○ 大学創立90周年記念式典ならびに祝賀会

と き 昭和56年11月8日(日)

## 新年交歓会開催される

1981年の希望に燃えて新年交歓会は恒例によって昭和56年1月5日(月)の午後1時半より水道橋校舎の中央ホールにおいて盛大に挙行された。

当日は快晴にめぐまれ本年の夏を以って千葉校舎に移転することになっているため、この校舎においての新年交歓会も最後の行事となるので、新年を迎えた喜びと共に一段と緊張感が会場にたまたよった。

金竹学監の司会で開会され鹿島理事長、松宮学長、河邊会長、一戸父兄会長の祝辞があり、ともに学校の新移転に伴う今後の発展の基盤に立つ年として決意を新にして出発するむねを述べられ同窓各位の協力を希望された。又鹿島理事長は台湾の蔣芥石氏の終戦直後の日本に対する温い取扱いについて感謝を述べられると共に今後の温情に対

する恩返しを充分考慮する様皆で考えて行動を起そうという趣旨を話されたのが印象を強くした。又松宮学長はフロリダ大学歯学部との姉妹校の提携により、今後一段と東京歯科大学が国際的な発展をする旨お話があり河邊会長から昨年の3議員(関口、浅井、井上各先生)を国会に送ることが出来た快挙を感謝すると共に80周年記念募金が申込金額が9億3千万円余りとなりもう一層の同窓会員の協力が呼びかけられた。又一戸父兄会会長は学校や同窓会と協力のもとに一層事業を充実することを報告された。

次いで井上名誉会長の御発声により今後の母校の一段の発展と同窓各位の御健勝を祈って乾杯を高らかに唱えられ、新年にふさわしく和やかな交歓会が行われた。



## 第9回進学指導セミナー (昭和57・58年受験)

母校東京歯科大学の入学試験は全国私立歯科大学・歯学部の中なかでも最難関とされ、受験指導雑誌の評価もそれを裏づけております。そして、光輝ある歴史と伝統を背景に、卓越した教育にもとづく最高の国家試験合格率を誇り、歯学の雄としてのわが母校に対する社会の評価は、われわれ同窓の矜持でもあります。

当然のことながら東歯大入学への扉は、その教育を受容しうる十分な学力にしたがって開かれますが、早期にスタートした効率的な学習と本人の自覚が、激しい競争に打ち克つための重要な鍵となります。したがって、高3夏季休暇の時点における指導および講習だけでは、高校における単位選択、学習法、基礎学力の充実と、自覚の面からも多くの子弟にとって遅きに失する傾向がうかがえることから、過去の経験を活かして、第4回より本セミナーを高2生を対象にした短期講習と高3における従来の形式の講習とを組合せて内容の改善をはかり、適切な指導と対策をより充実させ、一人でも多くの子弟が自からの力で母校進学の志を遂げられるよう企画しております。本年も下記にしたがって実施いたしますのでご案内いたします。

### 記

1. クラスを次のように分類します
    1. 56年春新学期より高3生になる者

**Aクラス:** (57年受験)

    2. 高校既卒者(56年3月卒業も含む)

※ 昨年Bクラス受講者は更めてAクラスに申込みこと

**Bクラス:** (58年受験)

    - 56年春新学期より高2生になる者
  2. 期 間: **Aクラス:** 昭和56年7月25日(土)から8月9日(日)まで 16日間  
**Bクラス:** 昭和56年8月1日(土)、2日(日)の2日間  
Bクラスは次年度にAクラスとして夏季長期講習を実施します
  3. 定 員: **Aクラス** 150名  
**Bクラス** 110名  
※ 教室収容力に限度があり、後部坐席では黒板文字の読み取りなどが困難ですので、定員を厳守し、先着順に締切ります
  4. 会 場: 笹川記念館(東京・三田)
  5. 受講費: **A**……………95,000円(教材・昼食費を含む)  
**B**……………20,000円
  6. 申込期限: 昭和56年3月31日までに、同封所定の申込用紙に所要事項を洩れなく記入のうえ、受講料を添えてお申込下さい
  7. 申 込 先: 〒101 東京都千代田区三崎町 2-9-18  
東京歯科大学同窓会 宛
  8. 送金方法: ○現金書留
  9. 宿泊斡旋: 宿泊斡旋(ホテル・シングルルーム)を希望する者は申込書該当欄に記載し、予約料5,000円を受講料に加算してご送金願います
  10. その他: 日程・会場などの詳細は受講者に別途ご通知します
- ※ 附 記: ①本セミナー受講が、入学試験に際してとくに配慮されることはありませんので念のため申し添えます。  
②申込書「続柄」欄には受講者と父兄との続柄を具体的に記入して下さい。  
(例・長男、二女など)



会長 河 邊 清 治 殿

第9回進学指導セミナーに下記の者を  
参加させたいので申込みます

会員氏名

① (東歯 年卒)

申込クラス: A ・ B

宿 舎 幹 旋: 希 望 ・ 希 望 し な い (各項目の該当を○で囲む)

55年セミナー: 1. Bクラスを受講した 2. Aクラスを受講した

※印欄には記載不要

お ..... り ..... か ..... え ..... し

|                |                                 |  |                                     |       |
|----------------|---------------------------------|--|-------------------------------------|-------|
| ふりがな           |                                 |  | 在 学 ・ 出 身 校 名 (56年4月現在)             |       |
| 受 講 者<br>氏 名   | 昭和 年 月 日生                       |  | 高 校                                 | 年 在 学 |
|                |                                 |  | 大 学                                 | 年 卒 業 |
| 受 講 者<br>連 絡 先 | 〒 TEL                           |  | ※ 56年<br>A ・ B                      |       |
| 父 兄 氏 名        |                                 |  | 東 歯                                 | 年 卒   |
| 父 兄 住 所        | 〒 TEL                           |  | 続 柄                                 |       |
| 理 科<br>選 択 科 目 | 物 理 ・ 化 学 ・ 生 物<br>(受験2課目を○で囲む) |  |                                     |       |
| 備 考            | No.<br>※ A ・ B ・ C ・ D ・ H      |  |                                     |       |
|                |                                 |  | 写 真 貼 布<br>5 cm × 4 cm<br>脱 帽 3 分 身 |       |



## 年 頭 所 感

理事長 鹿 島 俊 雄

同窓各位 あけまして おめでとうございます。  
各位には、ますますご健勝に新春を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

本年は酉年にあたります。酉年は昔から異変のある年といわれております。異変とは、どちらかといえば余り縁起のよくない変事を意味するようですが、本学にとりましては、千葉校舎の完成並びに創立91周年の記念すべき年にあたります。まことにめでたい異変といえましょう。

このめでたい年の初めにあたり、所懐の一端を述べ、各位とともに本学の発展を祈念したいと思っております。

さて、千葉校舎については、昭和46年10月に校地取得の仮契約を千葉市と結び、その翌年本契約、校地代金の支払いを終え、昭和49年9月4日登記を完了いたしました。頭初より顧みますと10年の歳月を要した大事業でありました。校舎建設の経緯については、本会報に逐次報告いたしましたとおりであります。

今、関係各位の努力と協力により千葉校舎の大半の建築を終え、主要設備の整備も着々と進行しており、本年6月には完成する目途も確実となりました。世界にも有数の最も整備された歯科大学が誕生する次第であります。

しかし、翻って考えてみますと、大学の真の権威と声価は、建物の立派さのみにあるのではなく、その大学の持つ教育陣の教育体制および研究体制の完璧さの如何によって評価がきめられると思っております。したがって、千葉校舎の建設の完了をもって91年の歯学最古の歴史を持つわが東京歯科大学における私の任務が終ったとは考えておりません。これからが名実ともに91年の伝統と歴史を守っていかなければならない重大な時期にあると考えます。それについては、最高の責任を持つのは、もちろん、法人理事会であります。その代表者である私、理事長の責任でもあるのでありま

す。今後とも大学の経営に全力を尽さねばならないと決心いたしております。

昭和52年7月の参議院議員の選挙戦辞退には健康上の理由はありましたが、私の余生は東京歯科大学の発展のために尽したいと決意し、昭和34年7月以降18年間に亘る議員生活をも敢て振り切って、爾来本学のため全力を尽してきたのであります。私は今は亡き血脇守之助先生、奥村鶴吉先生のご遺志を体して私なりに今日まで努力して参りました。それに皆様方の和の精神に支えられたが故であって、決して私の功績であるなどとは考えたことはないのであります。いうならば、独楽を廻すにも一本の心棒があるのであります。その役目を果たしたにすぎません。むしろ今後期待されるのは真の大学の充実であります。

省みて私は本学法人の評議員を34年、理事19年、理事長を8年勤めております。この期間に、前述いたしましたように千葉市稲毛校地の取得、引続いて千葉校舎の建設に着手し、その資金の確保も達成し、あと数カ月後には校舎完成をみることは前述のとおりであります。これで一つの峠を越したわけではあります。さらに水道橋校地には法人本部をはじめ各部門の本部または大学院あるいは歯学総合研究センター等が、設置されることになるのでありましようし水道橋校舎の増改築も行われることとなりその完成に向って邁進しなくてはならないのであります。今後の資金計画に基づく資金の獲得には将来の経済状態からみて一層の困難が予想されるのであります。私はそのためにできるだけの努力をする覚悟と検討を重ねておりますが新キャンパスの維持、そのあとに控えている水道橋校舎の整備のために、われわれ当事者は今後できる限りの経営財政緊縮化を図ることが必要であると考えております。

昨年末、政府の昭和56年度の予算編成の折に、私学振興財団から私立大学に対して交付される補

助金の予算額の大幅減額という情報がありました。私も久方ぶりに予算獲得のため政治的に各関係方面に運動いたしました。本学出身の自民党文教部会副部会長の井上裕議員も私と力を合せて大活躍をいたしました。幸い文教部会長の森議員は私の年来の親友でありましたので、この間を幹旋するなどいたし、昭和55年度予算より8.8%の増額ということに決着いたしましたのでありますが、このことは、血は水よりも濃いということの証明でもありましょう。

本学出身議員が全私立大学のために大きな功績を残したと思いますし、わが大学としても他大学に対し貢献の一端を示し得たことを自負しております。

昨年の衆参両院同時選挙の折には、浅井美幸、井上裕、関口恵造の三議員を両院に送り込みましたことは、画期的な壮挙でありました。このことは同窓並びに関係各位が和の精神をもって事に当たったからに他ならないと思います。大学の完成も同様に和の精神をもってしなければ達成されな

いと確信いたしております。

私どもの今住む世界は自由主義社会であります。自由主義社会でなければ学問の自由もわれわれ生活の幸福もあり得ないのであります。私どもは、この社会を守らねばなりません。したがって、教育の中で各教授は、以上の見地から人作りに愈々心を新たにして精進されますよう心から期待するとともにお願いする次第であります。

終りに、建設途上にある本学のため同窓会創立80周年記念募金（東京歯科大学施設整備資金募金）並びに緑の資金の募金を提案し、実行に移された井上真同窓会名誉会長並びに現執行部各位に深く感謝するとともに、この事業に参加された同窓各位に心からお礼を申し上げたいと思います。また、今後引続いて計画される水道橋校舎の本館の再建という大事業について同窓各位の心からなるご支援を期待いたす次第であります。

年頭にあたり所懐の一端を述べ、各位のご健康とご多幸を衷心より祈念いたします。

---

## 同窓会よりのお願い

### 募金いま一息!

東京歯科大学千葉校舎の建設も順調に進捗し8月には移転を完了、9月からは開校の運びとなって参りました。

この大事業に対し同窓会では東京歯科大学同窓会創立80周年記念募金（東京歯科大学施設整備資金募金）を行っており同窓の皆様方の絶大なる御協力によりまして、現在目標額10億円に対し今一步のところであります。もとより募金であり強制的のものではありませんが、同窓生にとりまして東京歯科は現在の我々を育成してくれた母校であります。その恩に感謝する気持を募金参加により実現したいと思いますので、出来る丈多勢の方々の御賛同を仰ぐ次第であります。

2月5日現在の募金申込状況は4119件、9億6千万円であり、目標額に未だ4千万円不足です。

この記事につきましては既に御賛同頂いている方には重複して申訳ありませんが、未だ募金に参加されていない方々におかれましては、何卒御協力下さいます様切にお願い致します次第であります。

尚念の為申し上げますが、申込をされた方でも6月末日迄に御入金されないと所得税の寄附金控除が受けられませんので御配慮下さい。

申込方法につきましては出来る丈各地区支部長の方に、御相談の上お申込みの程お願い致します。

# 本部短信

## 1) 行事, 役員出張, その他

昭和55年

- 12月 1日 卒後研修セミナー講師打合せ
- 4日 父兄会懇談会 河邊会長出席
- 6日 茨城県支部総会 中久喜理事出張
- 7日 千葉県支部総会 河邊会長, 杉山, 浜野理事出張
- 9日 京橋支部総会 河邊会長出張
- 11日 日本橋支部総会 河邊会長出張
- 13日 浅草支部総会 伊丹副会長出張
- 13日 山梨県支部総会 阿部副会長出張
- 13日 元東京都歯科医師会会長, 元本所歯科医師会会長故入江義次氏葬儀 河邊会長他役員参列
- 16日 広報部委員会
- 19日 東歯関係日歯役員, 代議員, 県歯会長懇談会 河邊会長他役員出席
- 22日 卒後研修特別委員会 (モニターリング小委員会)
- 24日 大学支部総会 阿邊副会長

昭和56年

- 1月 5日 新年交歓会 河邊会長, 井上名誉会長他役員会員出席
- 9日 卒後研修セミナー講師打合せ
- 10日 浅草, 下谷支部合同懇談会 河邊会長出張
- 14日 千代田, 麴町支部合同懇談会 伊丹副会長出張

- 15日 岡山県支部総会 河邊会長出張
- 15日 東京医科歯科大学歯科同窓会名刺交換会 安嶋副会長出張
- 16日 卒後研修特別委員会 (モニターリング小委員会)
- 16日 芝支部懇談会 阿部副会長出張
- 17日 世田谷支部懇談会 河邊会長出張
- 20日 広報部委員会 (会報編集)
- 20日 卒後研修セミナー委託研究関係打合せ
- 21日 常任理事会

## 2) 支部長交替

(交替)

- 青森県支部 久米田俊英(昭和22.3卒)56.1.1
- 千代田支部 松尾 宗明(昭和25.3卒)56.1.1
- 日本橋支部 酒匂 睦夫(昭和22.3卒)56.1.1
- 玉川支部 岩淵 健治(昭和17.9卒)56.1.1
- 横浜中央支部 皆川 清利(昭和24.3卒)56.1.1
- 横浜北部支部 三島平左衛門  
(昭和24.3卒)56.1.1
- 横浜鶴見支部 石井 昭(昭和24.3卒)56.1.1
- 岐阜県支部 蒲 宣雄  
(昭和16.12卒)56.1.1

昭和56年1月1日付 次の会員は叙勲の榮譽に浴されました。心からお祝い申し上げます。  
勲五等瑞宝章 田中健之助氏 (宮崎県)

☆昭和56年度から共済負担金と共済金の額が変りました。

|             |             |
|-------------|-------------|
| 共済負担金       | 4,000円 (年額) |
| 共済金 (弔慰・罹災) | 20万円        |

第86回の同窓会定時総会で本年度(昭和56年度)分から従来3,000円であった共済負担金を4,000円に, また, 従来18万円であった弔慰・罹災共済金を20万円に引きあげることにきまりました。

あまりうれしいことではありませんが, 年々弔慰金の支出が少しずつ増え, 計画人数を越える年もあるようになり, このままでは, 弔慰金等の支出に支障を来す恐れがでてきたため, 総会におはかりをして, 決定をみたものです。これに併い弔慰金も2万円のアップをはかりました。物価上昇の折から充分な額ではありませんが, 共済基金の現状から御了解下さい。

## 故入江義次先生を悼む

向井喜男

高齢社会人のモデルのような存在であった入江さんがなくなった。55年11月14日享年92才。たくさんさんの肩書を残されて。

入江さんに“志らがの恩寵”昭和43年5月金婚記念)という自伝があって、それによると、『私は凡人であり、生い立ちは複雑多岐で多くの苦難に遭遇しました。しかしその試練には必ずそれにたえ得る力と避けられる道が神によって備えられていました。はかり知れない加護と恩寵を頂いて今日に至りました』と。

さて入江さんは明治44年東京歯科医学専門学校に入学しました。昔は年寄りの学生が多かったが入江さんもクラスの平均年齢から三つか四つ年上であった。入江さんよりまだ10ぐらい年嵩の学生が数名いたものだった。患者に接した関係もあつたろうがひげを生じた学生がたくさんいた。

大正3年10月に卒業してひと月たつたたぬうちに入江さんは、第2のふるさとである本所緑町に開業した。同級生の中でいちばん早く開業したのは入江さんだった。それがまたたくうちに「はやる歯科医」という評判をとって歯科医学士としてこの世に新しい一步をふみ出した。

開業の成績が順調であると共に外部の仕事に関係するように、或いはさせられるのは今も昔も同じであるらしい。入江さんのそのような開業医として公職の軌跡は、震災や戦災という受難はあったけれど、日当りのいい所をとんとん前進していった。今日までの役職はあまりに多くてここには主なるものに止めることにして。

大正7年本所歯科医師会の幹事に就任以来本所歯科医師会長、東京都歯科医師会長、そして日本歯科医師会役員、議員、議長等に就任して歯科医師会の隆盛のために貢献した。

昭和3年本所緑町町長に、次で本所88ヶ町連合町長に18年間勤務して地域の発展に尽した。

母校の学校法人の理事や同窓会の役員、評議員等にも就任して母校の発展のために協力した。元来質素な入江さんが毎日出かけるので、家のもの

からルンペンとからかわれて毎日毎日出かけた。

私の見る入江さんの役員哲学は、いろいろな人とよく話をする。人見知りをしてしない。下町人生で練りあげた人の和のかなめ。これを入江さん風といえば、人に奉仕するという事は神に仕えるということ。俗人なら、なるようにしかならず、だが、なるようにはなるというところ。そして入江さんが晩年特に意欲を燃やすのが老人福祉の問題であった。墨田区老人クラブ会長、東京都老人クラブ連合会長、全国老人クラブ副会長をつとめた。

昭和41年9月15日「老人の日制定記念の会」(日比谷公会堂)では皇太子ご夫妻並びに佐藤首相に全国1千万の老人を代表して謝辞をのべて、入江さんは生きがいのある老人の生活をつくり出すために力を尽したいといった。

入江さんのご栄誉——藍綬褒章(昭和38年)勲四等瑞宝章(昭和42年)従五位に追叙せらる。55年12月13日厳かに挙行された歯科医師会の合同葬儀、叙位叙勲の感銘もさることながら、もうひとつプライベートの感激を——それは神がお手伝い下されたとは申しながら入江さんご夫妻がでかされた場外ホームランの快挙、われわれ外野の衆をびっくりさせるのです。“たった2人で38人まで”昔のうたい文句ではないけれど、うめよふやせよの大繁昌、いろはがるたの⑩の字です。

入江さんに最良の思い出はと聞けば——『3歳(昔の5才)の時にクリスチャンの歩みをはじめたこと。——東海道大井川が海に注ぐ河口の寒村で母親に手を引かれて教会に通い洗礼を受けた。それが90年の生涯の幸福な方向づけとなった。神の摂理としか思えない』という。

入江さんは小さい時からいつも“神が共に在す”と教えられていた。小さい時に与えられた信仰というものは単純であっても強いものと思われる。

ここまで書いてきて今更のようにジーンと胸に覚えるのは人間の陶冶ということの大切さ。——入江さんは10才の時に上京して世話になる叔父の

家についたのが教会、——喜びも苦しみも教会と共にして、80年教会の中で生きて来たということに入江さんの歩み、入江さんのの自ら凡人という

意味の深さ尊さが考えられる。

謹んでご冥福を祈りご遺族の上に恵みの与えられんことを。

幼稚園ではありませんぞ——入江家の団樂（昭和54年1月写）



入江さん夫妻2人（子供7人 義仲さん他6人（男1人女5人））  
孫 17人 男4人女13人  
ひこ孫14人 男10人女4人 } 38人

入江家の陰の力。強盗が入ってもビクともせず、用意してある〇〇を渡して追いかえした健康で頭のいいおばあちゃん（中央 つね未亡人）

## 逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。（敬称略・届出順）

- |                 |   |       |          |
|-----------------|---|-------|----------|
| ●昭 4 卒<br>静岡県支部 | 小 沢 瑛太郎（74才）<br>〒420 静岡市大岩2-38-5        | 急性心不全 | 55.11.29 |
| ●推 薦<br>山梨県支部   | 若 月 武 夫（86才）<br>〒404-01 山梨県東山梨郡牧丘町窪平120 | 心 不 全 | 55.12. 2 |
| ●昭 3 卒<br>高知県支部 | 浜 田 薫 明（77才）<br>〒780 高知市本町3-1-4         | 心 不 全 | 55.12. 2 |
| ●昭 2 卒<br>秋田県支部 | 山 内 馨 児（77才）<br>〒010 秋田市中通3-1-7         | 老 衰   | 55.12. 9 |
| ●昭 23 卒<br>練馬支部 | 大 坪 隆 壽（55才）<br>〒177 練馬区西大泉町1, 018      | 肝 硬 変 | 55.12.12 |



## 第12期学術会議会員再選に厚く御礼

### 諸先生方の絶大な御支援に感謝

東京歯科大学名誉教授 山本義茂

同窓諸先生方には、益々御壮健で御活躍のことと心からお慶び申し上げます。私も御蔭様で、相変わらず元気で、皆様方のお役に立つよう努力しております。

さて東京歯科大学学会、同窓会会員をはじめ、多数の大学などの教育機関、学術団体各位の御推薦と絶大な御支持により、日本学術会議第12期会員に再選させていただきましたことに対し、厚く御礼申し上げます。前期、第11期の立候補では、私立大学関係への国庫助成の改善、増額の推進を最重要目標としましたが、任期中の第79回総会で、私立大学への国庫助成の改善について、勧告の採択に至り、皆さま方への約束を果たさせていただきました。また歯科教育問題小委員会委員長としまして、第11期において実現方を第7部長からの要請を受けていた懸案の「医学教育会議（仮称）の設置」に関する勧告が、第80回総会で採択され、昭和55年11月1日付けで内閣総理大臣 鈴木善幸宛に送付されたほか、その写しが大蔵、文部、厚生、農林の各大臣、総理府総務長官、行政管理庁長官、科学技術庁長官、国立大学協会会長、公立大学協会会長、日本私立大学協会会長、日本私立大学連盟会長、私立大学懇話会長、(社)日本私立歯科大学協会会長、全国歯科大学学長会議会長、日本歯科医師会会長、日本歯科医学会会長宛にそれぞれ送附されました。このほか「国公立試験研究機関の運営改善」「国立老化、老年病

センター（仮称）の設立」「医学情報センター（仮称）」「実験動物ガイドラインの策定について」等の勧告が採択されました。

これは皆さま方の力強い御支援によるものと厚く感謝申し上げます。

第12期の立候補に際しましては、「大型プロジェクト」に最大の努力を傾注するほか「医歯薬大学への国庫助成の改善」を掲げ、また歯学教育問題委員として、「歯学教育、特に生涯教育の改善、推進」を最優先目標としたほか「医歯薬の密接な連携による学際領域の研究、教育の推進」及び「医歯薬教育の国際交流の強化推進」「高齢化社会への医歯薬の対応策の確立と乳幼児対策の具体化」にも最善の努力を傾注する所存であります。

学術進歩追求、研究、開発には、これで十分という限界はなく、現代の歯学、歯科医療には多くの重要な問題が存在しており、学術会議を通じて積極的發展を図るために、皆様方の御意見を反映させたいと思いますので、御協力、御鞭撻の程お願い申し上げます。

非才ではありますが、幸い白数大阪歯科大学学長、新国日大歯学部教授の両先輩が学術会議会員としております故、先輩の御指導のもと、より前進したいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

## 学術会議会員選挙の御礼

選挙対策委員長 瀬端正之 副委員長 中久喜 喬・佐藤徹一郎

昨年おこなわれました第12期日本学術会議会員選挙に際しては、河邊同窓会長をはじめ同窓諸先生の暖かい御支援にあずかり、再度山本義茂先生に当選していただくことができました。私達も2度目の対策委員ということでもあり、同窓諸先生からの御好意あふれる励ましをいただき、無事この大任を果せましたことは誠に嬉しい限

りでございます。本来ならば、拝眉の上御挨拶申し上げるべきところですが、ここに一言御挨拶を申し述べ、感謝の意を表する次第です。いたらぬ点多々あったことと存じますが、何卒今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 母校だより

### 移転・再建計画作業急速に進む

#### ◎移転・再建計画学内委員会の設置と経過

千葉校舎の建設が着々と進み、今年夏には予定通り移転が行なわれる。移転後の水道橋校舎の利用については、かねてより法人理事会からの諮問により、学長を委員長とした水道橋校舎利用計画学内委員会で検討が進められ答申が出されたが、移転期が迫るに従って、現在の水道橋の大学病院の縮小と移転後の水道橋病院への移行、両キャンパスへの人員配置、移転期の臨床実習体制、研究部門の設置等々に絡んで、千葉校舎への移転計画と水道橋校舎の再建計画を密接に関連づけて進めることが必須であることから、新たに、移転・再建計画学内委員会が設置されることになり、去る7月8日の全体教授会において別記のような組織が学長から発表された。

この委員会には学長を委員長とした親委員会の下に八つの部門委員会が組織されている。委員会の作業は7月から早速開始されたが、とくに、今年の移転期が臨床実習の主要時期となる現専門課程3年生がこの10月に登院し、12月から本格的臨床実習に入るために、移転期の両キャンパスへの教職員等の人員等の人員配置計画と、それに対応した患者制限計画やリクアイヤメント、日程等の臨床実習計画を早目に立てる必要性から、病院部門委員会を中心として関連領域で急ピッチで作業が行なわれている。そして教学部門をはじめ、各

部門においても、全学的な計画を一括する親委員会の議を経ながら順次精力的に作業が進められている。

この委員会は、教育、研究および診療等の主として学務に関する事項についての計画を検討しているが、当然のことながら、移転・再建の学務面での計画にも大学法人の方針の決定を仰がねばならない事項が数多く含まれている。他方、移転に際しての、具体的な設備移動をはじめ、事務系および管理系等を中心として検討すべき事項の企画や実施については、東京歯科大学移転実施本部が設置され、本部会議が開かれて目下実施計画が鋭意練られている。この本部機構においては、金竹学監を本部長とし、事務局長には中村大学事務部長が当たっているが、移転・再建計画学内委員会との関係を緊密にするために、移転・再建計画学内委員会の第8部門には、実施本部の事務局をそのまま骨格とした設備移動部門委員会が置かれると同時に、親委員会の幹事である関根副院長が実施本部会議に出席し、また、実施本部の中村事務局長と武田事務局次長が親委員会の委員として出席している。

なお、56年度から57年度にかけての移転の時期を実情に応じて別表のように4期に分け大学として統一した呼称を用いることになった。

(関根 弘 記)

#### ○委員会の組織

移転・再建計画学内委員会

委員長 松宮誠一学長

副委員長 高木圭二郎副学長、金竹哲也学監

幹事 関根 弘教授

委員 高橋 庄二郎、田熊 庄三郎、  
坂田 三弥、石川 達也、  
羽賀 通夫、中久喜 喬、  
見明 清、高添 一郎、  
加藤 繁次、河合 貞吉 の各  
教授、中村和夫事務部長、武田  
栄勇事務部長補佐。

## 母校だより

### 臨床実習部門

委員長 高橋庄二郎教授

委員 関根 弘, 石川達也, 町田幸雄, 羽賀通夫, 中久喜喬, 見明 清, 佐藤徹一郎, 浅井康宏, 大森清弘, 瀬端正之, 溝上隆男, 黒柳錦也, 川島康の各教授  
山岸東太郎病院庶務課長

### 病院部門

委員長 関根 弘教授

委員 高橋庄二郎, 石川達也, 町田幸雄, 羽賀通夫, 中久喜喬, 見明 清, 瀬端正之, 川島 康, 長谷川正康の各教授, 中村事務部長, 樋笠吉明病院事務長

### 研究部門

委員長 田熊庄三郎教授

委員 関根 弘, 高橋庄二郎, 坂田三弥, 石川達也, 町田幸雄, 見明 清, 高添一郎の各教授, 萩原義雄教務課長。

### 教学部門

委員長 見明 清教授

委員 関根 弘, 田熊庄三郎, 町田幸雄, 羽賀通夫, 中久喜喬, 浅井康宏, 瀬端正之, 溝上隆男, 川島 康, 河合貞吉, 山本又雄, 秋山誠一郎の各教授, 萩原教務課長, 原田清勝学生課長

### 管理共用施設部門

委員長 高添一郎教授

委員 関根 弘, 田熊庄三郎, 中久喜喬, 堤 璋二, 溝上隆男の各教授, 中村事務部長

### 歯科衛生士専門学校部門

委員長 石川達也教授

委員 関根 弘, 河合貞吉の各教授  
他歯科衛生士専門学校教育態勢調査委員会の中の関係者。

### 歯科技工士学校部門

委員長 羽賀通夫教授

委員 関根 弘, 石川達也, 町田幸雄, 瀬端正之, 溝上隆男の各教授

### 設備移動部門

委員長 中村事務部長

委員 関根 弘, 高橋庄二郎, 田熊庄三郎, 石川達也, 羽賀通夫, 見明 清, 高添一郎, 河合貞吉, 長谷川正康の各教授, 武田事務部長補佐, 樋笠病院事務長, 萩原教務課長, 原田学生課長

### ○移転時期区分の呼称

移転準備期 昭和56年6月以前

移転第Ⅰ期 昭和56年7月～8月

移転第Ⅱ期 昭和56年9月1日～11月30日

移転第Ⅲ期 昭和56年12月1日～昭和57年4月30日

移転第Ⅳ期 昭和57年5月1日以後

### I 学位記授与

第268回(55.9.8)合格, 第269回(55.10.20)授与

山崎 安仁(口外Ⅱ 第612号 甲286号)

河田 英司(理工 第613号 甲287号)

吉嶺 光(小児歯 第614号 甲288号)

唐橋 宥(口外Ⅰ 第615号 乙327号)

佐藤 春海(保存Ⅱ 第616号 乙328号)

森村 儀一(病理Ⅱ 第617号 乙329号)

山根 照人(理工 第618号 乙330号)

第269回(55.10.20)合格, 第270回(55.11.10)授与

和田 大海(保存Ⅱ 第619号 甲289号)

八百枝正樹(保存Ⅱ 第620号 甲290号)

瀬畑 悦子(矯正 第621号 甲291号)

新井 康廣(矯正 第622号 甲292号)

洲野 智弘(小児歯 第623号 甲293号)

高野 伸夫(口外Ⅱ 第624号 甲294号)

小川 克昌(歯麻 第625号 甲295号)

濱上 弘晴(組織 第626号 甲296号)

大串 勉(保存Ⅱ 第627号 甲297号)

石川 達也教授（東歯大・保存Ⅲ）

羽賀 通夫教授（東歯大・補綴Ⅱ）

### 大学院学生の定員数増加について

去る10月20日に開かれた第269回本学歯学研究科委員会において、昭和56年度の入学に関する要項が決定した。

すなわち、従来1講座につき1学年2名を基準とし計8名の定員であった大学院学生定員数が、明年度より1学年3名計12名に増員されることになった。

なお、来年度の募集人数は各講座によって一定していないので、関係者は教務課に問い合わせて戴きたい。

### Ⅱ 高橋庄二郎東歯大病院長再任さる

任期満了に伴う次期東歯大病院長選任については、選考委員会の議を経て法人理事会の承認を得、現病院長高橋庄二郎教授の再任が決定した。発令は昭和55年11月1日である。

なお、病院長が任期中で千葉新病院に赴任し、新たに東歯大病院長が選任された場合の任期も、残存期間の昭和58年10月31日までである。

### Ⅲ 第211回東歯学会開催さる

本年度秋の東歯学会総会は10月25日（土）・26日（日）の2日間にわたり、専門課程第3・4両教室において盛大に開催された。

なお、学会において発表された一般講演は70題の多くにのぼり、その他、別記の如く特別講演3題・シンポジウム1題が行われた。

#### 特別講演

#### 1. 歯周病ワクチン

奥田 克爾助教授（東歯大・微生物）

#### 2. 歯と鉱物学

河合 貞吉教授（東歯大・進程・化学）

#### 3. 色覚のメカニズム

田崎 東二教授（東北大・医・生理）

#### シンポジウム

歯科領域における色の計測と表示

司会 関根 弘教授（東歯大・補綴Ⅲ）

講師 西村 正雄教授（東歯大・衛生）

佐藤徹一郎教授（東歯大・保存Ⅱ）

### Ⅳ 第12回東歯祭開催される

第12回東歯祭は、10月29日から11月3日に亘る6日間開催された。本年の東歯祭は、水道橋校舎、市川校舎で行われる最後の東歯祭ということから特別企画として、専門、進学両課程の歴史展示、進学課程において初めて一般歯科展示が行われるなど、例年以上の盛り沢山の行事がくり広げられた。

進学課程においては、10月29日夕刻から、仮装行列、ファイヤーストームなど前夜祭の行事にはじまり、球技会、コンサート、映画会、模擬店が開かれた。専門課程においては、10月30日より各講座の協力による展示、衛生士専門学校学生による模擬店が11月2日まで行われた。

最終日11月3日午後には市川グラウンドにおいて運動会が行われた後、会場を合併教室に移し、表彰式が、引続き後夜祭が行われ6日間の祭典もどこおりなく終了した。

本年の東歯祭には、多くの一般見学者の他、千葉移転をひかえ、かつての学び舎の思い出を胸にいだかれた同窓諸先輩の姿が多数みうけられた。

### Ⅴ 補導関係者・父兄懇談会開催される

去る11月18日（土）午後1時より、「大学補導関係者・父兄懇談会」が専門課程において開催された。従来この種の会合は、毎年5月末に行われる父兄会総会の後に開かれていたが、今年からは大学主催として、前期末試験の結果等が出た時点で開催されることになった。

全父兄に対し案内状を発送したところ、進学課程191名、専門課程212名、総数403名の父兄が出席された。因みに、本学在籍学生数は994名である。

当日は、午後1時から2時まで、専門課程学生の父兄は第4教室、進学課程は第1教室において学長、学監の挨拶のあと、教務、学生両部長より本懇談会の趣旨ならびに千葉校舎移転に伴う学生教育などについての説明が行われた。午後2時か

## 母 校 だ よ り

らは、各学年各クラス毎に別れ、それぞれの学年主任、副主任あるいはクラス主任による個別面談が行われ、予定時刻5時を大幅に超過した午後6時過ぎ多大の成果を挙げ、無事終了した。

なお、午後5時半過ぎからは、父兄会主催によって補導関係者と父兄会役員との懇談の場が、水道橋グリーンホテルにおいて持たれ、懇親の実をあげつつ午後8時過ぎ閉会となった。

### VI 永年勤務者表彰の件

高橋 勇氏（市川病院、庶務課、用務員）は、昭和55年度医学教育等関係業務功労者として、昭和55年11月8日、文部大臣より表彰された。高橋氏は、昭和34年8月1日、市川病院へ勤務して以来、22年間の長期間、病理解剖室、動物実験室等にて精力的に仕事をされた。市川病院をはじめ、本学内研究者にとって、実験を円滑に行う上で、欠せない存在となっている。

### VII 解剖諸霊位供養法要

昭和55年度東京歯科大学解剖諸霊位の供養法要が11月6日、菊花香の祭壇の飾られた本学中央ホールで行われた。遺族並びに教職員、学生が多数列席するなか、真珠院住持石井導師の読経のうちに学長の祭文が読み上げられ、諸霊位に対する感謝と冥福が祈念された後、遺族、教職員、学生代表の焼香が行われ、本学での最後の法要が滞りなく終わった。この後、正面玄関に用意されたバスで遺族の方々による真珠院への墓参りと読経・焼香が行われた。

#### 実験動物供養祭

歯学の研究や学生実習の為に犠牲となった諸動物の霊よ安らかにと祈念し、学長以下、教職員、学生の参列のもと、秋も深まった11月7日午後2時30分から本学中央ホールにて動物供養祭が行われた。僧侶の読経のうちに参列者が次々に焼香し、その霊を慰るに用った。

### XI 千葉校舎の見学

前回8月に行われた新校舎屋視察の折には病院棟、臨床管理棟は見学できなかったが今回工事の

進行途中ではあるが部外者の出入が可能な状態となったので11月19日(水)と11月25日(火)の両日、特に病院棟、臨床管理棟を中心に見学会が行われた。200余名の参加者があった。

### XII 北京市口腔医院周大成博士の来校

日本歯科歯史学会の招きで「中国口腔医学発展簡史」特別講演のため来日された北京市口腔医院副院長・口腔予防科主任の周大成(宗岐)博士が、去る10月16日来校された。同氏は、旧満州国歯科医師免許状の第1号の取得者で、昭和11年に来日し、東京歯科医学専門学校専修科生として口腔外科学教室、保存学教室に2年間在籍していたので、本校を母校のようになってかすみ、玄関ホールの血脇、奥村、花沢先生の胸像に深々と頭を下げられたのが印象的だった。松宮学長と歓談、竹内名誉教授の案内で学内を参観、今後の中国の口腔衛生の行き方などについて熱心に情報を集めていかれた。

なお、北京市口腔医院(院長柳歩青先生、昭和15年東歯専卒)は、本年改築移転(北京市天壇西里四号)し、近い将来、医学院(大学)となる由。

### XIII インプラント講習会開催さる

昭和55年11月25日、本学第2教室において研修部主催によるインプラントの講習会がおこなわれた。講演者は、パリ大学歯学部、RAPHAEL CHERCHEVE 教授で、その内容は「1980年代における歯科インプラントの展望」である。本学においてインプラントに関する講演がもたれたのは初めてであったが、臨床、基礎の先生方の多数御出席を得て、非常に盛会であった。なお講演に先立ち、学長より記念の楯が贈られた。(文責 瀬端)

### XIV 海外往来

#### ○ 山村武夫教授(病理Ⅱ)

山村教授は大学の命令により海外歯科大学教育システムの視察のため、昭和55年10月1日から昭和56年1月6日までの期間、米国、カナダ、イタリア、スウェーデンの各地を視察に出張した。

#### ○ 高添一郎教授(微生物)

高添教授はカロリンスカ大学歯学部と本学との間に姉妹校協定を結ぶための予備交渉のため、スウェーデン、ストックホルム市へ出張した。出張期間は昭和55年10月27日から11月7日であった。

○ 石川達也教授(保存Ⅲ)、大森清弘教授(口外Ⅰ)

石川教授と大森教授は国際協力事業団の委嘱により、昭和55年11月19日から12月1日まで、チリの主都 Santiago 市において開催された第6回国際歯科口腔学会に出席のため出張した。石川教授は『Fluoride Iontophoresis Using Electrical Pulse and Sealant for Carious Control』の課題で、また、大森教授は『口腔癌の早期診断、特に口腔癌の初期病型と動物の実験癌との比較について』の課題でそれぞれ約1時間の講演を行った。

### 田熊庄三郎大学院研究科長 フロリダ大学歯学部を公式訪問

大学院研究科長田熊庄三郎教授は、松宮誠一学長の代理として、去る10月1日より6日まで、姉妹校米国フロリダ大学歯学部を公式訪問した。これは10月3日・4日に開かれたフロリダ大学歯学部同窓会秋期総会への、Allen 歯学部長より松宮学長に対する公式招待に答えたもので、松宮学長の校務多忙のために、田熊教授の代理出席となったもの。去年11月姉妹校関係締結以来、本学からの公式訪問としてはこれが最初である。

田熊教授は9月30日成田出発、サンフランシスコ経由で10月1日夕刻ゲインズビル到着、ヒルトンホテルに落ちついた。翌2日、午後 Allen 学部長の案内で Bethaut 副学長、Gale カリキュラム委員長、Mackenzie 教育部長、Jones 臨床部長とそれぞれ1時間づつ会談、3日午前中は約1時間の学内参観の後、正午まで Stanley 教授、

Baughman 教授、Garrington 教授ともども会談、意見交換を行った。

同窓会総会は3日午後1時よりヒルトンホテル広間にて100名近い会員を集めて開会、Collins 博士と Jagers 博士の学術講演の後、田熊教授の「東京歯科大学90年小史」と題する特別講演が行われた。同教授は、20数枚のスライドを用い、高山歯科医学院として発足以来、今日までの本学発展のあとを、ことに高山、血脇、奥村、花沢の4先生をはじめとして、歴代学長のプロフィールと業績に焦点をあてて紹介し、講演後、本学の校歌の楽譜とレコードを記念として贈呈した。

翌4日は、2名の学生による特別発表と Gibbs 博士の学術講演で午前中を終わり、午後は全員、フロリダカラー(オレンジ色)のTシャツを着用し、バスを連ねてフロリダ大学対ルイジアナ大学のフットボール観戦にでかける。延々4時間に及ぶ大熱戦の末、ルイジアナ大学に凱歌があがり、これを機に一同まっ赤に陽に焼けて散会、同時に同窓会も閉会となる。

ちなみに、フロリダ大学歯学部同窓会は、卒業生のみならずフロリダ州在住の歯科医有志をも擁する任意団体で、会員は同歯学部の発展のために毎年100ドルづつの拠出を義務づけられている所から“Academy One Hundred”と呼ばれている。大学は、会員に対して歯学部の施設を責極的に開放してそれに応えている。

なお田熊教授は、7日フロリダ大学を後にしてワシントン市に向かい、IADR本部とNIHとを訪問し、同研究所 Nylen 博士のもとに留学中の本学第一病理柳沢孝彰講師に会った後、9日 New Orleans に至り、ICD米国支部総会と121回ADA年次総会に出席し、ロサンゼルスを経由して14日夕刻無事帰国した。(抜萃 編集部)

# 北から南から

## 東京地区の共済制度について

東京地域選出理事 海老原 信

全国の同窓会支部連合会は各々の地域で独自の活動を行っておられることだと思うが、この度は東京支部連合会の行っている共済制度について、簡単に御説明して御参考に供したい。

東京支部連合会は昭和47年以来、日産生命とグループ共済制度の契約を行っている。

制度の内容は連合会の会員及び従業員で保障開始時期現在健康で正常に勤務している方は診査なしで加入出来る。加入年齢は14才7カ月から75才6カ月までとし、既加入者は80才6カ月まで更新継続することが出来る。保障期間は毎年8月1日から翌年7月31日までの1年間とし、毎年8月1日に更新する。更新時の特典としては一旦加入していると、更新時に病気であっても前年と同じ保険金の範囲内で且つ年齢による制限内で継続加入

出来る。配当金は1年毎に収支決算を行って、剰余金が生じた場合には配当金として支払われる。給付金はAコースからFコースまで6種類の保険にわかれていて、最高のランクのAコースを例にすると災害事故死亡2,500万円、普通死亡1,500万円、その他災害事故障害給付金や事故入院給付金がついて、保険料は36才から40才までの場合は月額5,800円である。勿論年齢によって5才きざみで保険料が異なる。

会員にとってはかなり有利な共済制度であると思われるが、案外、保険嫌いの方が多いせいか、加入申込が思った程増加しないのが悩みである。東京支部連合会の会員の方の御加入をおすすめすると共に、他地域の方々の御参考になれば幸である。

## 偶 感

関東地域選出理事 荒 井 栄

今回関東地区の順番によるということでもまた関口選挙のために地区選出理事をおうけしたのですが、先づおかげさまで同窓会々員の方々の格別なる後援を得まして、地元として全く予想もせぬ得票を得たことは望外の喜びでほっとした一人で御座います。ここで今になって理事になったことから同級生のものから思いかけず激励の手紙をうけたのであります。そこではたと気のついたことは我々支部の同窓会の役員のこととてとにかく小生が卒業して以来既に数十年を経過していながら、支部長の交代はわずかに三人につかえたことでありまして、他県の役員の方々を思う時都心に近い県でありながら、昔のままの姿であったということです。幸い理事会に出席することによって天下の大勢が判明しここに役員にはかり、支部役員の一先

をはかることが出来たのです。学校も90周年を迎える今日この頃に当り、会員の方々も親睦をはかることだけでなく学校に対する関心も選挙に伴なって、一段と深まるものがあることを感じたのであります。任期はまだ一年あるということで、最近の歯科界にふきまくる旋風の中で近隣県との連絡をとり同窓会の運営に活気ある運営をはかって行きたいという気持で一杯であります。何としても我が身をかえりみずつとめた年のハンデキャップは一つの壁となっていることを痛感するものであります。いづれにしても“北から南から”という表題の意味からも数々の情報を得て駄馬にむちうち頑張りたいということで責任をはたさせていただきます。

# 支部のうごき

## 九州地域支部連合会



この同窓会は毎年九州歯科医学大会の開催期間に開かれているもので、今年は例年より19日も早く初雪をみた阿蘇山のふもと熊本市の料亭「新茶屋」で10月25日(土)午後6時より各県から62名の参加があり盛大に行なわれた。

支部長会議の後坂元一夫先生の開会の言葉があり、全員で校歌を高らかに斉唱、熊本県支部長の松本謙一先生の挨拶、阿部鋭夫副会長より母校の現況及び関口選挙での同窓の活躍又井上、浅井両先生の国会での活動などの報告、又佐々木理事より稲毛学園バースの経過や母校への子弟の進学問題や卒後研修セミナーなどつっ込んだ説明があり、次期開催県鹿児島島の浜田謹之助先生の乾盃の音頭で祝宴が始まった。

途中関口けいぞう先生の奥様が遠路わざわざ選挙お礼の挨拶にみえられ、約100畳敷の大広間は久し振りに顔を合わせる先輩、後輩、同級生とそこそこに車座となり秋の永夜を熊本オテモヤンのサービスと合まって歓談の時のたつのも忘れる位いであったが、山内敬吾先生の方才で閉会、三々五々と寒空の街にそれぞれくり出して行った。

その夜の出席者は次の方々であった。

(添島 記)

### 福岡県

宇美房英、鍛治寿一、川村泰造、北 正朋、

田中嘉実、深山 博、帆足木五郎

### 佐賀県

飯田正一、久野 勇、古賀景二、副島良一  
長崎県

江崎梅太郎、川上 晃、泉福和夫、田代雄二  
谷脇克彦、山口聖彦、山口真澄、渡辺修志  
大分県

芦苅輝雄、加藤義武、久保博英、友岡義和、  
野上順平、原嶋敏之

### 熊本県

天村美堯、彌政富士雄、大関英明、緒方 進  
小島立洲、片岡祐吉、木村義浩、小堀大介、  
坂元一夫、沢田宣彦、沢田 稔、鈴木勝志、  
添島正和、添島義和、多田集一、寺本龍之助  
中根俊吾、原口 洋、春野惟一、福嶋修治、  
牧 正臣、松岡富士夫、松本謙一、村上雄二  
守田 朗、森本博仁、矢毛石陸男、山田敬吾  
宮崎県

岩田卓延、上野誠三、田島基紀、浜田孝一、  
山崎頼任

### 鹿児島県

内山太一郎、児玉利徳、浜田謹之助

(50音順)

## 関東地域支部連合会総会



昭和55年度、東歯同窓会関東地域連合会総会が去る11月16日17日の両日に亘り、鬼怒の清流と紅葉の色も鮮やかな栃木県鬼怒川温泉、ホテルニュー岡部にて開催されました。当日は来賓として同窓会より、河邊清治同窓会々長、関口敏彦同窓会理事、荒井栄関東地区理事、大学側より学長代理の見明清教授、中久喜喬教授をお迎えし、又関口恵造参議院議員、大塚禎栃木県歯科医師会々長、黒崎、栗原栃木県同窓会顧問の御出席を頂きました。

総会は午後1時より始まり篠原企画部長の司会にて進行され、当番県の栃木県同窓会副会長の小平正夫先生の開会の辞の後、関東地域連合会々長小滝鏡巳男先生より、遠路出席された各先生方に対し歓迎と栃の葉国体の関係で之の総会が遅延した事について陳謝の挨拶がありました。

次いで河邊清治会長、見明清教授の御祝辞を頂き、又松宮学長、井上裕参議院議員よりの祝電披露がありました。松宮学長は東歯大理事入江義次先生の葬儀のため出席出来なかったとしてテーブルの御祝辞が用意されており、母校90年の記念事業や、学校跡地の利用法等をつぶさにお話し下さい出席者一同会場に流された学長先生のお声から拝聴致しました。

次いで小滝座長、星野副座長により報告、議事が進行し、本部報告として中久喜教授より、第12期日本学会会議会員選挙に立候補されている山本義茂名誉教授の紹介と有効な投票についての指示を頂きました。途中、関口恵造先生が多忙の間を縫って会場にお見えになり、国会報告を兼ねた御祝辞を賜りました。特に健保法の改正と点数改正の見通し等について興味あるお話しを承けました。

会務報告、決算報告、予算案審議等の議事もスムーズに承認され総会も円満裡に終了致しました。

総会終了後の特別講演は河邊清治先生より義歯四方山話と題してユーモアを交えた講話を頂きました。夜の帳がおりた5時30分より懇親会に入り鬼怒川温泉の情緒を満喫しながら歓談の花が咲き、校歌斉唱のお開きまで盛会の中に閉会となりました。翌17日は午前9時から支部長懇談会が催され、次期当番県の群馬県へ事務引き継ぎが行なわれ来年度伊香保温泉での再会を約して解散致しました。

最後に御臨席下さいました来賓の諸先生方に心から御礼申し上げ、併せて関口、井上両参議院議員の一層の御活躍をお祈り致します。(鈴木記)

## 鹿 児 島 県 支 部



去る10月19日(日)、久方振りに帰郷なされた、高良瑞穂先生を囲み、鹿児島市内の“ホテル白明”にて懇親会を開きました。

高良先生は本支部の大先輩というよりも、鹿児島県歯科医師会の重鎮であり、昭和45年春頃迄は明治の元勲西郷隆盛、大久保利通等多くの偉人を輩出して、有名な、鹿児島市の加治屋町で大正元年開業以来永年に亘り、地域医療の向上に寄与されておられましたが、現在は、埼玉県の草加市にて御息のもとに怨々自適の生活をなさっておられます。

当日は高良先生と同じく明治23年生れで、本年卒寿を迎えられながらも、未だ“明治青年”として現役で御活躍中の有川国盛先生をはじめ、20数

名が出席し、記念撮影ののちは、つもる話に花が咲き、名物の焼酎も手伝って盛会裡に終了しました。

本支部では現在、浜田謹之助先生を支部長に、会員40名で、東歯会になぞらえて、毎月14日を例会日として会員相互の親睦をはかっております。当日出席者は、次の通りです。

高良瑞穂、有川国盛(父)、三宅久夫、的場作次郎  
 浜田謹之助、大迫 亘、下野 脱(父)、下原朝光  
 児玉 利徳、長田 一哉、萩原 朗、篠原 寿宏、  
 中村 逸朗、下野 久夫(子)、有川 喜康(子)、  
 飯野 和男、大森 明彦、橋口 哲彦、内田 信友、  
 森原 和久、新村淳一郎 (年令順、敬称略)

×

×

×

# クラス会だより

## 三 辰 会

(昭和7年卒)

### 昭和56年度福井地方会

本年5月29日(金)・30日(土)・31日(日)3の日間、福井駅集合、午後2時、駅ビル3階、ロビー及び食堂をもって開幕致します。乗物は30人乗デラックスバス。第1日は芦原温泉泊り。第2日は永平寺——朝倉遺址——陶芸村——河野海岸——敦賀市——三方五湖畔、早瀬「ひろせ」旅館泊り。第3日は舟で三方五湖巡り——レインボーラ

イン——若狭——三方町(昼食)——敦賀午後3時頃解散の予定です。申込み書類は別にお送り致します。費用など郵便で別送書類によってお願い致します。

以上が五十嵐嘉秋氏からの計画予定表から要点を抜粋したものです。取敢えず、お知らせ迄。

(大久保・清水記)

## 昭 伍 会

(昭和9年卒)

### 昭伍会親睦総会

去る5月22日午前8時上野駅を発って仙台へ向った。正午各地のクラスメートが1人の遅刻するものなく到着し、再会を喜び合った。

午後1時仙台駅をあとにバスで本塩釜に到着、遊覧船で松島海岸を経て端巖寺並びに五大堂を観光し、午後4時20分にホテル大和に到着。一休みして夜6時30分に総会に移り、渋谷君の挨拶並びに会員の近況報告があり、昨年末死去された成田清、小山映二、高橋兼亮、伊東正明、国定政之助、猪狩政人の各位の霊に黙祷を捧げ衷心より哀悼の意を表した。次いで石井安治君夫妻の昭伍会親睦総会への毎年出席をたたえて仲好賞(九谷焼火びん)を贈る。

いよいよ宴会に入り、きれいだころをまじえ夜の更けるのも忘れて歌って踊って賑やかな一夜を過ごした。

23日早朝昨夜からの楽しい夢覚めやらぬうち朝食を摂る。服部、村尾両君から動議を出される。昭伍会のように会費の無い会はない。少なくとも運営費位は出し合おうとの提案である。年間12,000円を会費として決定し、さらに、役員諸氏と相談

し、昭伍会員全員に明年2月か3月に集めるべく通知することを決めた。

23日は快晴にめぐまれ、ホテル大和を9時出発一の関巖美溪、毛越寺、中尊寺(中食をとる)を経て花巻温泉に向う。ホテル花巻温泉に午後4時40分到着。少休止の後昨夜とは趣向を変えて中学生時代の昔話や手拍子揃えての楽しい宴が開かれた。

24日快晴、10時ホテル花巻温泉を出発、宮沢賢治の史蹟を見学、花巻空港を経て花巻駅へと明年を期し帰路についた。(栗原記)

明年は5月21, 22, 23日、白浜温泉、勝浦温泉の南紀方面に行くことを内定。詳細はいづれ通知致す。御期待下さい。(渋谷記)

出席者

鍋島 進、宇美房敏、樋口 梓、藤林 博、  
石井安治、薮 多作 以上同伴組  
服部敏夫、増田喜久次郎、武藤 悟、栗原修治  
田村致和、倉田 勉、村尾 栄、岡本保和、  
小山一雄、山口 亨、飯島襄治、竹内民勝、  
渋谷孝磨

鹿 鳴 会

(昭和10年卒)



昭和55年10月16日ホテルニューオオタニで開催された卒業45周年記念事業の諸行事を総て終了し同夜はホテルに一泊して旅行参加者は翌17日午前9時ホテル前からバスで出発する。途中進路を水道橋に向け近き将来永久に姿を消す吾々の巣立った母校校舎を懐しみ偉容を惜しんで定刻東京駅に着く。新幹線に乗って熱海着。熱海より特別仕立てのバス二台で愈々思い出の地伊豆半島廻りに出発。心配された天候も快晴無風、熱海温泉街を通り波穏やかな海岸の風景を賞でつつ正午頃テレビ、ラジオで有名なハトヤホテルに着く。大広間で昼食をとる。バスは海岸沿えに下田に向う。約40余年前胸とどろかした有名な仙寺を見学しあまりに有名になった為か昔の面影が無く、一同いささか失望する。夕刻白浜のプリンスホテル着、大広間で宴会。岡本幹事司会でそれぞれお国自慢ののどを聞かせ愉快に第1日目の夜を過す。ホテ

ルは海岸に建っていて景色は非常によかったが期待の温泉が無かったことは残念であった。ホテルを9時出発、奥石廊崎で伊豆七島を眺めジャングルパークから出前の果物を賞味して記念撮影をとる。バスは更に海岸線を走り堂ヶ島で下車、遊覧船で島廻りをし爽やかな海風にそして侵食された洞を廻って気分を新にした。バスは更に進み船原峠を越し古き時代の思い出を偲びながら船原着。

有名な船原ホテルのお狩り場焼で昼食をとって終着熱海駅に着く。一同何事もなく全員無事で旅行を終了。来年の再会を約して解散した。

同伴組 浅野、市之川、岡本、小野、木村、佐藤(邦)、高橋 茂、高橋八十吉、高橋正武、田中(正二)、田村元、徳永、戸田、広田、松本松崎、向笠、横山、吉本

個人 池田、河村、佐々、椎貝、武藤、望月森田、阿保

昭和55年度総会、物故会員慰霊祭及び  
卒業45周年記念祝賀会

昭和55年10月16日(土)午後5時分30より、ホテルニューオオタニで55年度の総会が開かれた。当日は夫人同伴も含めて64名が出席し、また学生時代に特に御厄介になった福島、大井両先生の奥様にもご出席を戴いた。

尚56年度の総会は東京が当番で母校の創立90年式典に合わせて実施することになった。

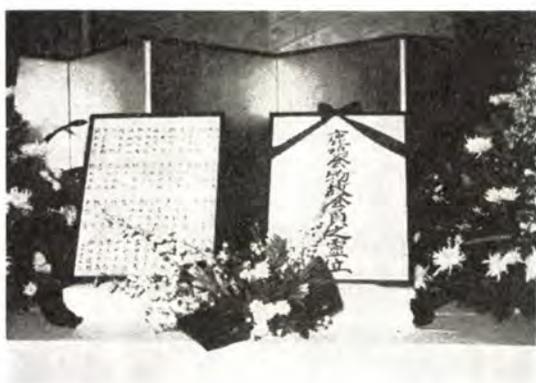
総会に引き続き物故会員の慰霊祭が開かれた。卒業以来今日までに惜しくも他界された59名の級友諸君の氏名とその霊位を正面祭壇に飾り、各人の氏名を呼びあげるなかを参会者が一人ずつ霊位の前へ静かにすすみ出て白菊を献花し、亡き友の冥福を祈った。



そのあと、宴会場で卒業45周年の記念祝賀会が行われた。宴が進むにつれて賑やかに、ほとんど全員によってテーブルスピーチが行われ古希に近い人々の集りとも思えぬ元気であった。

終宴の後も大東京の夜景を見おろすスカイラウンジで飲む程に酔う程に昔話しに華が咲いた。

同ホテルの33～34階で一夜を過した一同は翌17日、伊豆半島一周の旅に出発した。



物故会員氏名

|    |   |   |   |   |   |      |      |   |      |      |    |   |      |   |   |
|----|---|---|---|---|---|------|------|---|------|------|----|---|------|---|---|
| 市川 | 潔 | 思 | 国 | 吾 | 郎 | 佐    | 藤    | 静 | 鳴    | 海    | 尚  | 彦 | 水    | 谷 | 渡 |
| 伊藤 | 吾 | 岡 | 部 | 重 | 賢 | (旧姓) | (旧姓) | 関 | 西    | 山    | 二  | 三 | 水    | 間 | 司 |
| 伊藤 | 勇 | 各 | 務 | 秋 | 夫 | 島    | 宗    | 輝 | 野    | 口    | 俊  | 雄 | 宮    | 田 | 忠 |
| 石岩 | 省 | 笠 | 井 | 久 | 之 | 清    | 水    | 保 | 畠    | 伴    | 長  | 采 | 宮    | 田 | 嘉 |
| 磯上 | 東 | 網 | 村 | 助 | 一 | 菅    | 木    | 徳 | 馬    | 場    | 一  | 敬 | 森    | 田 | 彦 |
| 板野 | 博 | 木 | 村 | 正 | 慎 | 鈴    | 村    | 善 | 林    | 野    | 衛  | 愈 | (旧姓) | 形 | 夫 |
| 今田 | 忠 | 北 | 洞 | 為 | 春 | 竹    | 中    | 次 | 平    | 川    | 一  | 衛 | 山    | 崎 | 治 |
| 今福 | 晴 | 栗 | 原 | 可 | 治 | 田    | 井    | 郎 | 福    | 尾    | 準  | 実 | 山    | 永 | 衛 |
| 江部 | 悌 | 小 | 林 | 恒 | 敏 | 高    | 島    | 宏 | 藤    | 屋    | 木  | 三 | 吉    | 文 | 雄 |
| 小川 | 正 | 河 | 野 | 平 | 三 | 塚    | 沢    | 人 | 文    | (旧名) | 賀  | 好 | 渡    | 一 | 吉 |
|    |   | 境 |   | 正 | 郎 | 土    | 屋    | 元 | (旧名) | 庄    | 州  | 州 | 和    | 要 | 郎 |
|    |   |   |   |   | 治 | 那    | 波    | 雄 | 本    | 英    | 一郎 | 男 |      | 逸 | 郎 |

クラス会だより

出席者氏名 朝浪惣一、浅野正男、阿保喜七郎  
池田太郎、伊丹一男、市之川正二、岡本 伝、  
小野武夫、北沢林吉、河村三省、木村吉太郎、  
後藤和光、佐々 良、佐々木三知夫、佐藤邦重  
椎貝敏夫、高木圭二郎、高市 章、高橋 茂、  
高橋八十吉、高橋正武、田中正二、岡村 元、

徳永道秋、戸田幸一、中村保夫、彦坂 武、  
広田一夫、藤井立吾、藤田成孝、松本四郎吉、  
松崎 剛、向笠 憲、武藤十郎、望月民部、  
森田信一、山浦安夫、山田有勝、山脇 弘、  
横山国藏、吉本覚二、脇屋和夫、松本正一  
(以上のうち同伴25組) 福島、大井両先生奥様

十 六 会

(昭和19年9月卒)



昭和55年度十六会総会は9月20日より2泊3日伊勢・志摩の景勝地で行われ、当地の幹事の青、勝田、大矢、西田、平野の五氏の御尽力に依り会員37名、家族21名参加の実に素晴らしい総会旅行になった。第1日は近鉄鳥羽駅前の戸田家旅館に午後5時集合し宴会・演芸を見乍ら久闊を語り合った。第2日目は朝食後2台のバスに分乗し伊勢志摩スカイラインを伊勢神宮へと向ったが、素晴らしいと言う景観が生憎の小雨でガスがかかり残念。伊勢神宮では特別に内殿参拝をし、御神楽を奉納、荘重なる雅楽の調べに舞う巫女にしばし見惚れる。御神酒を頂き退場。又、バスでつとに有名な松阪牛肉の本場「和田金」にて鋤焼を味わう。矢張り本場、一と味違う美味しさであった。其の後鳥羽に戻り御木本の真珠島見学を行う。真珠の歴史博物館見学、家族への土産を各自に買ってパールロードを一路今夜の宿泊地賢島の志摩観

光ホテルに向う。的矢湾にかかる大鉄橋を渡って20分程で英虞湾が見えホテルに到着、直ちに庭園で記念写真を撮り、別館にて総会、型通りの会務報告、会計報告、次期幹事横山・北川・山崎氏の紹介並びに次期総会地決定に入り、候補地シンガポールと大阪があげられ、結果大阪に決まった。次に会費の長期未納者対策に就いて協議、種々御意見を伺い閉会。本館宴会場にて名物のアロピステーキはじめ新鮮な海の幸のディナーを味わう。十六会の人気者児玉氏が軽妙な司会で皆を笑いの渦に。奥方達の「ここに幸あり」のコーラス迄出て最後の宵に名残り尽きぬ思いがした。翌朝は希望者のみ英虞湾一巡を遊覧船で楽しみ解散となる。

出席者(順不同) 青、有馬夫妻、飯田夫妻、伊藤、泉川夫妻、勝田夫妻と令息、大矢、小川、金沢夫妻、金子夫妻、鹿野悦夫妻、片山、北川、

## クラス会だより

城所, 児玉(正), 木村夫妻, 工藤夫妻と令嬢,  
後藤, 坂夫妻, 西條, 鈴木(鐘), 長井, 金森,  
高田, 塩谷, 成田, 古田, 堀江夫妻, 山根夫妻,

本山, 福本夫妻と母堂, 西田夫妻, 平野, 広田夫  
妻, 隅田, 横山, 渡辺夫妻令嬢とお孫さん。以上  
(鹿野)

## 五 十 一 期 会

(昭和20年9月卒)

### 本年度51期会総会開催の予告

昨年10月号でお知らせした通り今年の総会は北陸地区富山県ブロック代表の千保君のお世話で開催されます。そこで千保君より寄せられた計画の全行程を掲載致します。

- 1) 期日: 昭和56年6月の予定
- 2) 場所: 金沢駅前ステーションホテル集合(前日宿泊)
- 3) 日次: 2泊3日の日程
- 4) 行程: 第1日=ホテル前9時出発—金沢市内 観光—寺井町九谷焼窯元—安宅の関跡—山代温泉泊, 総会と懇親会開催。  
第2日=山代—輪島漆器—東尋坊—永平寺—関西電力美浜原発所—高浜町青戸園泊。  
第3日=ホテル前—小浜市内国宝巡り—若狭めのう加工所—敦賀駅—米原駅(午後解散)

大体以上の様な行程で開催されますが、いずれ具体的な最終決定の通知が学友諸兄宛に届くものと思います。さて北陸地区の学友, 富山県の羽井

君, 石川県輪島の角君, 福井県勝山の白崎君, 等には何卒千保君を中心に積極的なご協力とご支援のほど, よろしくお願い致します。又全国の学友諸兄には是非共今から準備されメモしておいて下さる様, ご用意頂きたいと存じます。そして一人でも多くの学友が参加出席されるのを心から希望すると共に五十華会の奥様方も数多く出席され賑やかな楽しい旅行にしましょう。特に中京地区, 関西地区の学友には万障繰合せて出席されます様念願致します。お互いに元気な姿で再会する久闊の栄は又格別の意義があるもので, 学生時代をよみがえさせる気分には浴する言葉ではいけない喜びがあります。卒業以来まだ一度も出席したことの無い学友にも是非新風を入れて下さい。常連の学友達は両手をあげて待っていますので51期会の変らぬ友情親睦と友好を温める成果を期待し盛り上げて拝眉の栄を楽しみに長首しつつ全国学友諸兄の活躍を祈ります。(鶴岡 記)

## い づ み 会

(昭和23年卒)



昨年12月12日練馬区開業の大坪隆寿君が肝硬変にて入院先で亡くなりました。告別式当日の弔辞を以って謹んで報告に代えます。

### 弔 辞

われらが友大坪君, かわらざる人となるにはまだまだ早かった。君は此の度の入院で自らの死期を悟ったのか, つぶやく

様に“一年早かった”と云ったそうだが本当にまだまだ早かった。己はこよなく酒を愛し, 人を愛し, 豪放活談として今迄の人生を生きてきたかも知れない。私自身は卒業後の君の生活はあまり知らないが, 学生時代東大型の角帽をさまになる様にかぶり, お国のなまりが少しある独得なしやべり方をしていた君を私は今でも忘れない。“野村君, 俺は俺なりに人生を楽しんできたのだからいいんだよ”と叫んでいる様な気もする。だが残された奥さん, お子さん方を考えるとき, わが身に

## クラス会だより

ふり返っても本当にまだ逝くには早かった。君の無二の親友であったとか、若くして死んだ山口君が彼の地で君を迎えてはくれるだろう。“君もきたか、これから又二人でつきあえるな”と。だが死んでしまっははしようがない、人生はまだまだこれからだったのになあ。幸い君にはこよなく愛したお子さん達がいる。君の後継者としての資格を得る寸前だ。どうか彼岸にて奥様お子様達を見守って下さい。同じ東京に住むクラスメートとして万感胸に迫って多くを語れない。住む世界を

異にした君、どうか彼岸より、最後まで心配だったろう奥様お子様方をお守り下さい。さようなら大坪君。

合掌

東京歯科大学同窓会いづみ会

会長 野村 有市

(追記) 奥様の千知様は東京都練馬区西大泉町1018(〒177, 03-924-4828)にお住いですが、愛嬢千春さんと千枝さんは松本歯科大学の5年と3年に在学中です。

## 一 期 会

(昭和28年卒)

一期会の皆さんお元気ですか。昨年9月13日の池袋サンシャインシティプリンスホテルに於ける総会には参加会員58名同伴6名で盛大裡に終了したことを心から御礼申し上げます。役員改選で今回津島が会長に推薦され、本年1月22日に事務引継ぎを行い新役員が次の様に決定しましたので取急ぎ御報告致します。(敬称略)

副会長：大森、石塚、庶務：坂田、兵藤、小池

企画：関根、片倉、西山、中村、安藤

会計：相田、阿部、クラス代表評議員：西山

従って役員会の承認を得て本会の事務所を会長宅に変更しましたので、連絡方よろしくお願い致します。

又本年度の総会を東京で開催し千葉校舎見学を予定致しました。日程等の詳細については次号にて御知らせ致します。(津島記)

## 四 期 会

(昭和31年卒)

### 四期会札幌大会

[昭和55年6月20日(金)]

昼間札幌ゴルフクラブ輪厚コースでゴルフをした人、札幌ビール園で生ビールと成思汗鍋を、ススキノへ繰出し、“北海の幸”毛ガニ、帆立貝、北寄貝、ポタン海老、男爵芋、とうきび、ラーメンを賞味し、紅灯の巷をさまよい午前様で宿舎の全日空ホテルへ……。

[6月21日(土)]

午前6時30分全日空ホテル前へ集合。札幌国際カントリークラブ島松コースへ。朝食後7時30分スタート。空澄み亙り絶好のゴルフ日和、キタキツネがコースへ顔を出し御気謙伺ひ。

参加者氏家、岩田、加藤、番田、千葉、西山、

水城、太田(寛)、井上(藤)、伊藤(成)、横山(嵩)秋山、杉村、杉山(弘)。

優勝 水城 NET71, 1位 加藤, 2位 秋山, 3位 西山, B・G 千葉 81, BB 番田  
ゴルフをしない人達は、市内観光へ。

午後6時 全日空ホテル“さとはろ”に全員集合、大懇親会が氏家会長の挨拶により開幕、続いて来年四期会25周年記念総会の開催地名古屋の岩田兄より準備状況を懇切丁寧に説明を受ける。長良川・犬山城・日本ラインと諸兄姉の満足のゆく観光を考へてくれているそうです。“乞御期待”卒業以来始めて出席の北海道浦河(サラブレッドの名産地)の原田兄の乾杯の音頭で、久しぶりの顔、なじみの顔入り乱れて酒を酌み交し北海道料

## クラス会だより



理に舌鼓みを打ち、子弟の話、ゴルフの話、仕事の話等楽しい3時間を過ぎ9時すぎ二次会をススキノのクラブ松前へ移し美女をはべらし乾杯又乾杯……、その後三次会四次会へと、殆んどの人達が午前様、青木、橋本、伊藤（剛）、安藤、杉山（弘）の五夫人達は男性諸氏より遅くまでススキノを徘徊していたという噂です、札幌の夜は楽しく更けて行きました。

〔6月23日(日)〕

今日は参議院議員の投票日、関口恵造先生の必勝を期し投票のため、三々五々帰郷解散致しました。

不在投票をして来た人達は札幌エルムカントリークラブで御別れコンペを開催。来年の25周年総会での再会を約して札幌大会の幕を閉じました。

参議院選挙でいそがしい中、遠くは宮崎より西山兄、岡山より井上(軌)兄と多勢の級友が御出席下さり有難う御座居ました。幹事一同たいしたおもてなしも出来ませんでした。約束通りの爽やかな天気恵まれホッとした次第です。

(杉山 弘記)

出席者氏名(順不同)

氏家英峰、片田哲夫、宮下真治、高橋邦武、大泉 猛、西山成實、井上 軌、岩田 淳、伊藤成

章、千葉重博、太田 實、番田 彰、加藤浩助、横山 嵩、水城八郎、井上藤夫、青木光夫夫妻、橋本脩夫妻、杉村孝、秋山 勇、小西 宣、田山俊二、村上 慧、原田淳也、安藤猛夫妻、伊藤剛夫妻、杉山弘夫妻

### 卒後25周年総会のお知らせ

“光陰矢の如し”とか、早いもので今年卒業後25周年になりました。そこで今回の記念総会を名古屋地区にて盛大に行なう事に決定いたしました。岩田 淳、伊藤成章、古田一男、大野敏弘諸先生方のお世話になり、次の様に決定しましたのでお知らせいたします。いづれ詳しいご案内は各自の手もとに届くと思いますがお楽しみにして下さい。

日時 6月13(土)~14(日)

場所 名古屋市郊外 犬山市  
名鉄観光ホテル

尚、親睦ゴルフ大会を13日に行ないますので前夜宿泊となります。13日夜に総会を行ない、14日は全員バスによる観光とその他色々、盛り沢山の楽しい企画が組み込まれているそうですので、今から万障繰り合せの上ぜひご出席下さい。

(太田 寛記)

## ジーン会

(昭和34年卒)



### 故山口隆英君の思い出

彼の悲報は昭和54年8月24日突然の出来事であった。53年に胃癌の手術を受け予後は良いとの事であったが。

昭和28年東歯予科生として四方畑に囲れた校舎

で肩を並べ人生論を戦わしたのがつい昨日の様な気がする。「隆平」と言う愛称で呼ばれた彼は浜松の地を安住の場所と定め熱狂的にモーツァルトの音楽を愛し、一方演歌のレコードをさかなによく呼ばれて飲んだのも彼の友人を大切に的一面でもあった。

浜松で最初のスタディーグループ浜松臨床研究会(現藤原臨床研究会)の幹事役として現東北歯科大学学長渡辺教授の第一回の研究会は現在15年以上を経、一つの権位ともなっている。一方油絵に於いてはプロ並の腕を持ち同好会でたびたび入選していた。彼の最後の仕事は我々同級会誌の編集であったが、その絶筆の短章は人生とは各人がその多くの人とのより深い交流に価値付け、「友への感謝と不変の友情を！」と結んでいる。

今は亡き友の死を悼みて

(荒川安雄)

## 晃和会

(昭和43年卒)

### 大谷勸(謝滄)君急逝す

私達のクラスメートである大谷勸(謝滄)君が11月2日午後8時、肝臓癌のため急逝されました。

同君は1938年中国広東省で出生され、1959年に来日、1960年東京歯科大学に入学されました。本学卒業後1975年より、東京都港区三田で開業されておりました。

本年7月25日、慈恵会医科大学病院に入院さ

れ、壮烈な闘病生活を経て、不婦人となりました。

最愛の奥様、2男2女の子供さんを残しての黄泉の国への旅立ちは、痛痕の極みであったことと思われます。

11月8日恵比須の東京国際基督教会において追思礼拝が盛大に催されました。

晃和会会員一同、心より謝滄君の御冥福と御遺族の今後の御多幸をお祈りいたします。

# すいどうばし

## 会員寄稿欄



## 水道橋校舎保存学

一 木 努（昭和50年卒）

東京歯科大学千葉校舎の完成に続いて、水道橋校舎本館の取り壊しが予定されている。半世紀にわたり本学の歴史をみつめ、また我々の心の拠り所となってきた建物だけに、無残に別れを告げるには忍びなく、ここに改めて水道橋校舎を顧みてその価値を見出し、保存の意義と可能性を探ってみたい。

設計者 森山松之助



はじめに水道橋校舎の設計者である森山松之助の経歴と、本学との深く長いかわりあいについて紹介しよう。松之助は明治2年6月7日、後の

貴族院議員森山茂の長男として大阪に生まれた。明治14年姉の愛子が本学の前身である高山歯科医学院の創始者、高山紀齋に嫁いだことで、同学院で使用する教科書の翻訳を手伝うなど、早くから本学とのつながりをもつことになる。明治26年3月、松之助は学友中條精一郎の下宿で、歯科医を志して、越後三条から上京して来た血脇守之助と出会った。そこで守之助の上品な風貌、人格、学識そして歯科界に乗り出そうとする決意にふれた松之助は、「血脇君ほどの人物が入ってくれたなら、高山の為にも、どれだけ幸福か知れぬ」と義兄の経営する高山歯科医学院への入学を強く勧めたのである。この松之助の熱意に動かされた守之助は、ここではじめて高山歯科医学院入門を決断、同年4月8日、森山松之助の紹介により高山歯科医学院へ入学したのであった。

明治30年7月松之助は東京帝国大学造家学科を卒業論文、卒業設計ともに首位の成績で卒業、直ちに大学院に入り翌年第一銀行建築事務所に勤めた。明治32年松之助は守之助の依頼により高山歯科医学院の校章を考案することになる。Takayama Dental Collegeの頭文字、TDCを組み合わせたもので、これこそ現在も使用する東京歯科大学のマークなのである。明けて明治33年、高山歯科医学院は血脇守之助の手に委ねられ、東京歯科大学と名も改められるが、それと同時に松之

助は理学、化学の講師として名を連ねた。また明治35年1月号から昭和9年12月号まで、33年にわたり、「歯科学報」の表紙を飾った月桂樹の意匠はこの頃の松之助の手になるものである。さらに明治39年に落成した、守之助の言葉を借りれば「すこぶるハイカラ式に出来上がって、誠に見事な」東京歯科医学院の校舎、血脇診療所、そして守之助の自宅すべてが松之助の設計によるものであった。

当時血脇診療所に通っていた台湾総督府民政長官の後藤新平はこの建物を非常に気に入る、その設計者を尋ねたところ、守之助はかねてから自分の家に身を寄せていた松之助を直ぐに引き合わせた。「君のこれだけの才能をぜひとも台湾の地で発揮してほしい」という後藤新平の言葉に松之助は台湾行きを決意し明治40年総督府の囑託として台湾へ渡ったのである。そして大正8年、台湾総督府庁舎（現総統府）を作り上げるまで、数多くの建物を手掛け、森山松之助が台湾の建築を変えたと言われるほどの活躍をしている。

帰京後、銀座に設計事務所を開設、昭和24年4月2日、山形県鶴岡市の疎開先で亡くなるまで、様々な設計を行なっているが、現存する主な作品をあげれば、久邇宮邸（現聖心女子大学、大13）東京市電気研究所（現東京都公害研究所、大14）本所公会堂（現両国公会堂、大15）蜂須賀邸（現オーストラリア大使館、昭初）新宿御苑台湾閣（昭2）片倉館（昭3）東京弁護士会館（昭7）等である。

互いの人生に転機を与えた、松之助と守之助の友情は生涯変わらず、三崎町の後、代々木山谷（現在市川にある血脇記念館）、千駄ヶ谷、代々木大山町と移った守之助の住まいは皆松之助が設計している。そして昭和2年、当時財団法人東京歯科医学専門学校の評議員でもあった森山松之助は、義兄を創始者とし、親友を理事長兼校長とする本学の設計と22年ぶりに取り組むことになるのである。

#### 歴史的建築遺産

大正12年9月1日、関東地方を襲った空前の大震災により、水道橋に偉容を誇った本学も一瞬に

して廃虚と化した。悪夢から約50日、集まった学生を前に血脇守之助は校舎再建にむけて「如何なる障害があっても、如何なる迫害があっても断じて私は一步も退かぬ。この事業が完成しないうちには私は死にませぬ、どんな事があっても死にませぬ、病気になっても死にませぬ……。」と決意を述べ、さらに11月には同窓にむけて「今一度二十数年の昔に立ち返り創造の第一線に起つ決心」を披露し、「これが復興のために今後の特別なる御後援を」と願う宣言文を送ったのであった。

この守之助の呼び掛けに応じて多くの校友同窓から多額の浄財が寄せられ、昭和4年4月、森山松之助の代表作の名を与えるにふさわしい東京歯科医学専門学校新校舎、現在的水道橋校舎本館が竣工したのである。

11月2日、守之助は落成式のあいさつの中で、この建築は本校独自の見地から設計され数多くの新しい工夫がなされていること、そしてその費用の大部分が校友の寄付によるものであることを強調し、また同日夜の同窓会総会では大震災直後の言葉を思い起こしながら「—今日、諸君と共に天命を果たした。これで私は死んでもよい。一代の生命は終わった。明日死しても更に遺憾はございませぬ。一代の事業了れり……。」と語ったのである。落成式の日、絶えまなく校内に響きわたった校歌が、北原白秋、山田耕作という二人の信頼と、学生、教職員の情熱の結晶であり、永久に歌い継がれて行くように、この建物もまた、血脇守之助、森山松之助という二人の友情と、同窓、教職員、学生の熱意が作り上げた、永く継承すべき、歴史的遺産ではないのだろうか。

#### 水道橋の顔



## すいどうばし

半世紀を経た水道橋校舎をながめてみよう。落ち着いた茶褐色タイルに包まれた、いかにも老舗の風格といった堂々たる外観、軽快に4階を貫く窓と、病院らしい清潔さを感じさせる出窓、そして学生用玄関から正面へと躍動する曲線などが表情豊かな建物をつくり上げている。ゆるやかな坂道をタイルの壁と並んで歩けば、高さの変化が楽しく、視線はコーナーのやさしい丸みに沿って、玄関内部に吸い込まれてゆく。この階段を上る時の緊張感、そして道行く人の流れに身を決める時の安堵感をどれだけ多くの人が感じてきたことだろうか。手応えのあるドアを押して、この建物が誇るべき中央ホールへ進もう。教育、研究、診療という様々な要素をまとめ上げたその中央にこの劇的な空間。講堂であり、体育館であり、画廊であり、またくつろぎの場、出会いの場所でもあった。当初ホールの天井はガラスで被われていたから、日中は自然光が降り注ぐ、いわば、廻廊に囲まれた中庭であろうか。そしてこの中央ホールは多くの人を迎え、また送り出して来た、まさに東京歯科の歴史の舞台であり、時代を越えてその歴史を雄弁に物語ってくれるのである。

昭和のはじめから、駅前の大通りに面した角地に、その個性的な姿でたたずむ水道橋校舎は、北側の後楽園とともに、水道橋の風景を構成する重要なポイントになっていることも忘れてはならない。ガードに縁どられた校舎も、車窓からの大時計も多くの人に親しまれてきた水道橋の顔であろう。さらに大切なことは、現在白山通りの拡張が予定されており、我が水道橋校舎が、白山通り唯

一の残ることを許された歴史的建築だということである。(地図参照)この計画が実施されれば、水道橋がいわいは真新しい建物だけが建ち並ぶ、味気無い町並みとなってしまう、その時こそ水道橋校舎のランドマークとしての価値はますます高まることになるのである。

### 松之助の松

水道橋校舎取り壊しの最大の理由として基礎の松ぐいの腐蝕があげられている。昭和30年代まで基礎用材として盛んに使われた松ぐいは水分があれば、ほとんど無限の耐久性を持っており、一般的には、地下水の存在故に腐朽することは非常にまれであると言われている。水道橋校舎の場合を具体的に考えてみよう。

①地下を約6m掘り下げ、その位置からくい打ちをしている。②長さ約12mという松ぐいを使用し、その先端は地下約17mにある砂礫層に到達している。③近くを流れる神田川の存在、④隣地、鶴屋ビルにおける昭和46年(地下鉄工事後)の調査では地表下2.8mで水位が観測されている。⑤近隣地での松ぐいの腐蝕がみられない。例一結核予防会(昭48)、三崎町教会(昭48)、日大経済学部(昭39)⑥建物の傾き等が認められない。

これらから本学の場合、松ぐいはかなり深い位置にあり、逆に地下水位はある程度の高さを保っているものと思われる。よって強度の腐蝕は予測しにくく、本学の地下に眼る1,697本の松ぐいが、どの程度の腐蝕であり、またなぜ腐蝕してしまったのか非常に興味あるところである。

千葉校舎移転後、水道橋には総合研究センター卒業後研修の施設、同窓会本部等の設置が計画されている。これらの機能を、水道橋校舎を取り壊すことなく、改造や増築によってその内部に収めて行くことも充分、可能ではないだろうか。もちろん建築基準法、消防法などの大幅な規制を受けることになるが、松ぐいの腐蝕も含めて、現在の建築技術をもってすれば克服できるであろうし事実近年多くの建築保存再生の報告がなされている。

### そして保存学

本学の歴史の証言者として、我が国の歯科医学に貢献してきた殿堂として、また近代建築史上備



## すいどうばし

値ある作品として、あるいは水道橋の証として、このかけがえのない水道橋校舎を未来に生かすこと、いや少くとも、その可能性を模索することが今必要ではないのだろうか。

昭和4年、水道橋校舎落成式の夜、同窓会総会の席で血脇守之助は、新校舎を我々の資を集めて建立されたお寺であると述べ、また、ぜひ銅像をと勧める声を遮って言ったのである。「あのお

寺、生きた銅像があれば程大きく出来た。これこそ後に残すべき銅像だ」と。あの水道橋校舎が地上から消え去る時、何か大切なものも共に消え失せてしまうと感じるのは私だけではないであろう。抜き去る前にまず残すことを考えるのは我々の務めではなかったのか。我々にとって馴染み深い、保存学の名を取って冒頭に掲げ、貴重なる建築遺産存続を願う序文としたい。

## 無医村診療と校医20年

呉 溪 順（推薦会員）

### 43年前の巡回診療



内務省の実地国家試験に合格した昭和9年から暫らく淀橋区柏木3丁目にて開業している時、知人に沖縄は医師の少ない働きがいのある所といわれ、それで昭和12年7月27歳の若輩で飛行機にて

単身見知らぬ沖縄にやって来た訳です。上陸してから交通の便が至極悪く無医村には電灯水道もないといわれたので感無量でした。引返す訳には行かないので先づ末広旅館で沖縄の地理と地名を教えて貰った。

無医村への巡回診療のスタートとして八重山の武富に船で渡って見た。私は船に弱いので至極辛かった。幸にして八重山の大岩歯科の紹介で技師一人を伴って診療を開始した。足踏エンジンを使用した村には電灯の代りに硝子製の石油ランプで飲み水はセメント製貯水タンクの黄変したボンプラの入った水でがっかりしました。

診療を完了して那覇に戻り薬品材料を仕入れたが材料屋といってもたった2軒で私は主に白石武一郎氏の店で取引さして貰った。那覇滞在中の大

半は辻という所に居た。辻という遊廓は家庭的で待遇もよく、インテリ風で好男子なら金も余りいらぬ所でした。

次は沖縄北部の本部まで車で直行し無医村の伊江島に船で渡った。早速村役場に行って貸家を依頼した所、貸家はないが倒れかけた家なら一軒あるといわれたので小使といっ諸に行ったら路に沿って片一方倒れかかって、しかもその入口に向って⊥字型の路があって住みにくい家だと思ったが迷信を信じない私は即座に借りることにした。入口の右側に石敢当と刻まれた2尺半位の石板をはずして下駄置きにしたが翌日誰かが元の所に立てられているのを見た。夜中動物の啼き声で眼を醒ますが何も見えない。翌日甲種合格の男の子を通訳にしたが隣りで寝るのが怖いといって住込みしない。伊江島も石油ランプに雨水で診療を続けました。

伊江島の診療を終了して謝花の無医村に移動したが車なく行脚でした。師範出の仲里氏を助手にして診療したが渡久地には神元氏が開業しているので半年位で切り上げました。

それから沖縄の最南端の具志頭村港川という漁村に来ました。その日借りた家は玉城亀吉氏の家で奥様がお産で母子共に喪失その日が葬式の日だと知らないで夕方引越して行った。その為か夜中頃用足しに裏戸を開けたらガジマル樹の側に小柄の看物を着てた人が立っているのを見た。私が側

まで行って小便をすませる時振り向いて声をかけようとしたら何も見えない。翌日家主の母に話して見たら嫁様がお産で亡くなったのを始めて知った。一年位して2階家の大嶺氏の家に移したが、戦争で本土から米が来ない故田を購入し自給自足を計った。米軍の上陸が迫ってくるので皆が竹槍を用意して肉迫する覚悟でおりました。

昭和19年9月知事の疎開命令を受け裸一貫で中部の屋敷名で開業している父兄の家族と共に疎開する予定で那覇に出て来た。船が満員で乗れずその為に数日を過ぎてから台湾に疎開をして貰ったが疎開先にはキニーネや特種薬が手に入らないので高熱や栄養失調症で倒れた疎開者が多かった。私は妻も父母も疎開中に亡くしてしまった次第で、口では表現出来ない程悲惨な目に会った一人です。

### 校 医 20 年

戦後沖縄に帰還し無医村巡回生活と縁を切り那覇で開業する事に決心しましたが、港川の治療椅

子その他一切爆破消失されたので苦労しました。当時市内の各小中学校には歯科医師の校医がいなかったので私は市内の真和志中学校長喜納政教氏松川小学校長上原栄氏大道小学校長等に会い事情を聞いて見たが学校には歯科検診予算がないと断られた。私は校長等に私の医院に来る児童の虫歯罹患率が非常に高いから是非検診させて下さいその代り検診用紙と父兄に持たせるチラシと検診器材薬品等は私が負担する、勿論検診料と往復タクシー賃も貰わないと申し出て始めて承諾してくれた状態でした。生徒数は4校で約8千名当時の紙数と印刷料が各校20弗位の高価でした。毎年の検診日になると医院を約1カ月位休診し検診を今日まで20年続いて来た。日本復帰後学校校医が制定されるまで十数年以上無料報酬で学校児童の口腔衛生健康向上に努力して参りました。70歳の老医師になった次第です。回顧して歳の取る早さに驚嘆し且一度しかない人生の青春を無医村に捧げた次第です。

×

×

×

◆原稿応募規定

原稿締切りは奇数月の10日で、原則として翌月発行の会報に掲載いたします。

投稿は原稿用紙に横書きをお願いします。便箋などのご使用はご遠慮下さい。尚この会報専用の原稿用紙(22字×10行)も準備してありますから、必要な時に請求して戴けば、お送りします。

随想、詩、短歌、時評など、寄稿は1編1,500字以内ぐらい、クラス会だよりは700~800字程度でお願いします。よろず告知板も、ご遠慮なく御利用下さい。

折角ご寄稿戴いても、規定字数を超える場合は、掲載いたしかねることがありますのでご諒承下さい。

「私のアルバム」の材料などは、ほとんどの皆様がお持ちと思います。簡単な文章をつけて是非ご提供下さい。また古い思い出の写真など、お貸し願って誌上で昔のよしみを温めたいと存じます。

原稿及び写真は原則としてご返却いたしません、特に貴重な写真などの場合はその旨お書き添え下さればご返送申しあげます。

◆へんしゅうこうき

ことしの冬は十七年周期の影響とかで大変に寒くなりました。日本海は大雪で列車も止まるという日が続きましたが、同窓の皆様はいかがお過ごしでしょうか、1981年の春を迎えて編集委員一同はり切っておりますが、何か新しい企画をと考えて苦慮しております、千葉校舎に移るに当り同窓の先生方、又学校の教授の先生方が今後どの様な抱負をもっているかを少しづつ掘り下げて行きたいと思っております。そのためには本当に考えていることを、腹の中を割った話が出来なければ、又きかれなければ意味がないので企画として考慮中です。

桜前線はもう近くなって春は足早やに近づいております。今年是一段飛躍の第一年目になることを心より願はずにはおられません。秋には90周年式典も挙行されることになっています。歯科界のために同窓会も転換と向上の年となりますように。

(中村)

広報担当理事：中村泰之、溝上隆男、松川健二、伊藤 哲、白崎源有、林 幹雄、馬嶋 博、野上順平  
広報部委員：中久喜喬、梅田昭夫、倉橋和啓、山本啓介、櫻井善忠、薬師寺仁、松井恭平、林 量一

昭和56年2月15日 印刷

昭和56年2月20日 発行

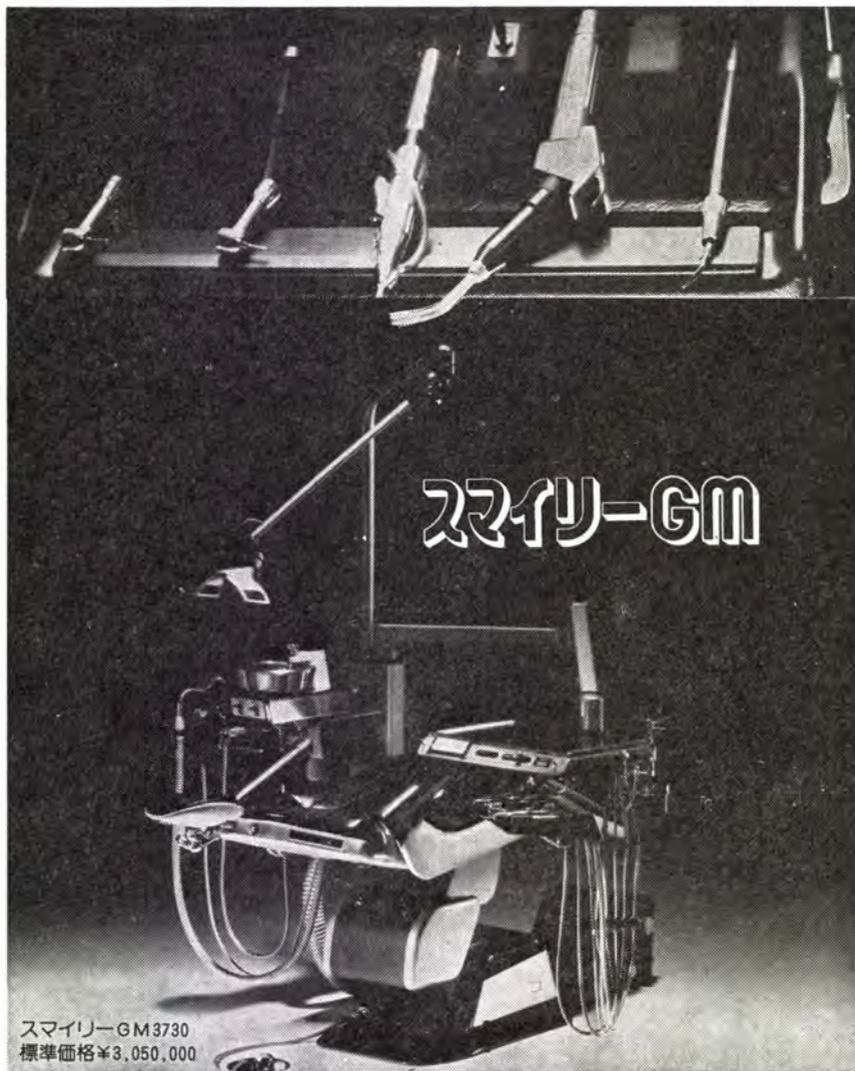
東京歯科大学同窓会会報 第199号

編集・発行人 中 村 泰 之  
東京歯科大学同窓会

〒101 東京都千代田区三崎町2-9-18  
電話(03)262-3421(内線226)  
(03)264-4859(直通)

印刷所 一世印刷株式会社  
東京都新宿区下落合2-6-22  
電話(03)952-5651(代)

オサダの機械に対しての熱意と真剣さを今、お確かめ下さい。  
自慢のインスツルメント群にミュースケーラー(超音波歯石除去器)を内蔵して、さらに工夫が光るスマイリーGM。



## スマイリーGM

スマイリーGM3730  
標準価格¥3,050,000

ドクターの診療効率を追求した  
オールマイティのスマイリーGM  
常に歯科機械のあり方を、身をもってリ  
ードしつづけてきた歯科機械のオサダ。  
そのオサダが「心のふれあう医療、心  
のかよいあう医療機器」を心から願ひ、  
本物を尊ぶ先生のために、上品に、丁  
寧に創りあげたデンタルユニットが、  
「スマイリーGM」です。

オサダ独自の技術で質の贅沢を極めた  
インスツルメント群に、ソフトタッチで  
従来品より効率もよく沈着物を取り除  
き、ハンドスケーラーとほぼ同じ重さ  
のミュースケーラーを内蔵した4機種  
を新たに加えて——ドクターの診療効  
率を徹底的に追求したオールマイティ  
のデンタルユニットです。



長田電機工業株式会社

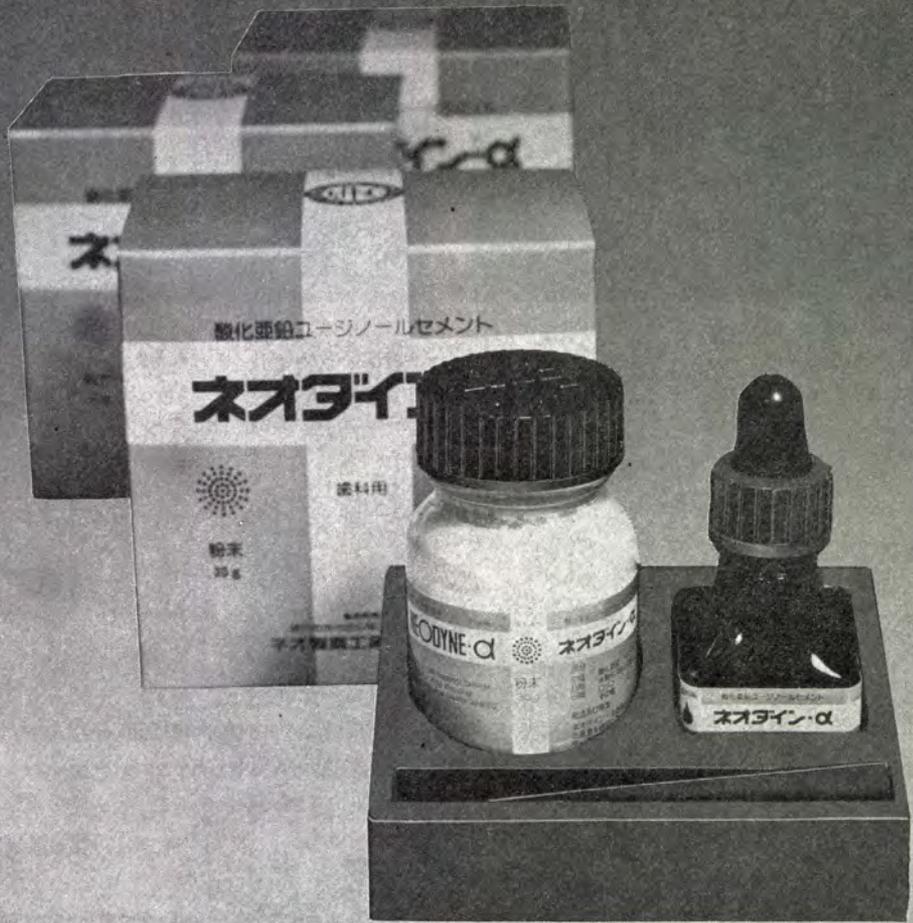
東京都品川区西五反田5-17-5 電話03-492-7651(代)

オサダの歯科機械

新発売

酸化亜鉛ユージオールセメント  
**ネオダイン<sup>®</sup>α**

大きく飛躍して新登場!!



ネオ製薬工業株式会社  
東京・長野

# 高輪と品川、ふたつのプリンスホテル

両プリンスホテルは、東京歯科大学同窓会の皆さまに特別サービスをご用意して、ご利用をお待ちしています。



由緒ある日本庭園を配して緑の中に静まる高輪プリンスホテル。500の客室、10をこえる各種レストラン、バー。つねにプリンスホテルならではの、まごころをこめたおもてなしで内外のお客さまをお迎えし、真のくつろぎを提供いたしております。



都内でも有数の設備を誇るスポーツランドをはじめとして、のびのびと楽しめる新しいタイプのホテル、品川プリンスホテル。ビジネスでのご利用はもちろん、ご旅行にもご家族でのレジャーにも幅広く、気軽にご利用いただきたいホテルです。

## ●ご宿泊●

特別割引料金にてご利用いただけます。

ご予約は、会員専用の予約直通電話をご利用ください。

高輪プリンスホテル (03)445-1855 品川プリンスホテル (03)449-3581

★上記専用電話以外のご予約につきましては、特別料金によるご宿泊は、できませんのでご了承ください。

## ●ご婚礼●

同窓会の皆さまと皆さまからご紹介いただいたご婚礼に対して、

各種のサービスがございます。

サービス適用ホテルは、高輪プリンスホテル・品川プリンスホテル・麻布プリンスホテル・白金プリンス迎賓館です。

★ご予約の際は必ず東京歯科大学とお申出ください。

 **高輪プリンスホテル**

東京都港区高輪3-13-1 ☎108 TEL.(03)447-1111

 **品川プリンスホテル**

東京都港区高輪4-10-30 ☎108 TEL.(03)440-1111

テイコク&ピアン・エア共同開発

**SUMMIT 80**



標準販売価格 ¥2,780,000 注 オペレーティングツールはサミット80には含まれません。オペレーティングツールボニー標準販売価格 ¥78,000

## 80年代の歯科医療のニーズに応じて

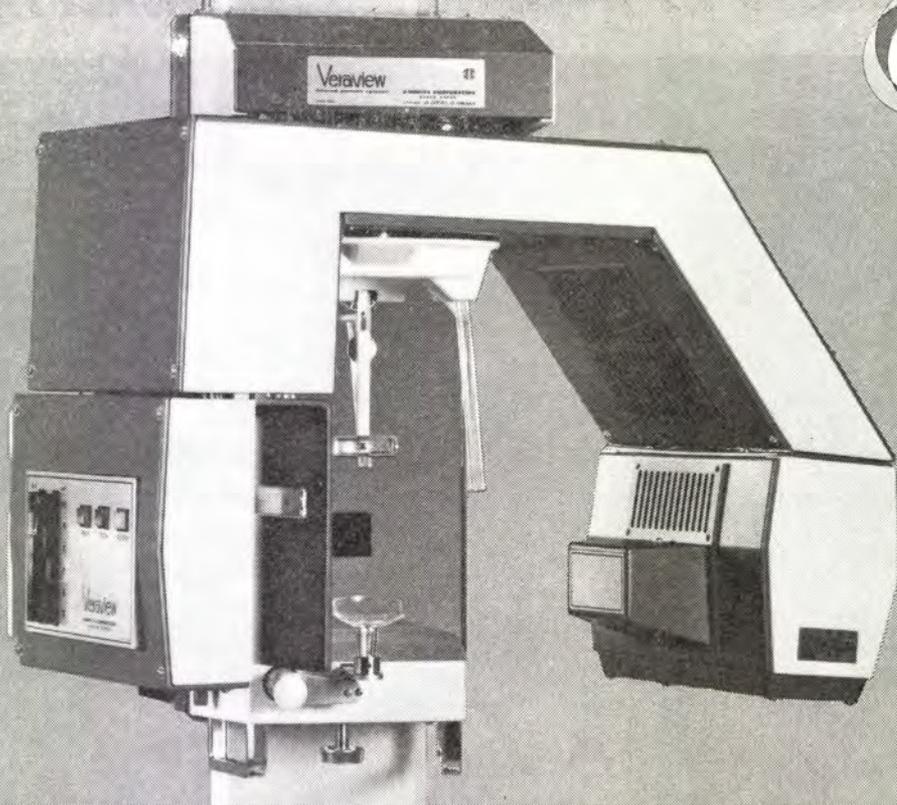
### 総てをマイクロに追求したテイコク&ピアン・エア共同開発

80年代に賭ける新製品開発に当り、両社共同研究の技術を結集し、新時代の  
歯科医療が求めるユニットをマイクロに追求し、ここにエアシステムチェア  
ユニット(サミット80)が完成いたしました。このユニットはチェアマウ  
ントユニットを根本から考え直し、チェアとユニットは完全に一体化され、  
機能本意にコンパクトに完成され、またオリジナルとしてのアイデアが随所  
に生かされ、使い易さ、耐久性、無故障を目標に練りに練って製作されてお  
り、自信をもってお奨めいたします。



**TEIKOKU DENTAL**

本社・ショールーム ● 東京都台東区台東3-41-4加藤ビル ☎03-833-4591(代)  
営業 本部 ● 東京都台東区台東3-41-4加藤ビル ☎03-834-0661(代)



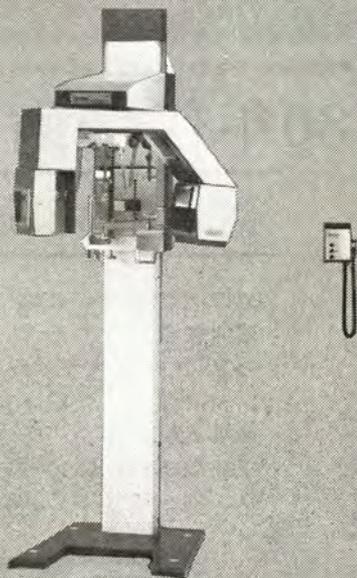
技術の差が、いま影像に。

# Veraview

歯科用パノラマ直流方式X線装置

- 強力で安定したX線照射を約束する直流方式。
- 患者の被ばくX線量を減少させた連続照射。
- 強力なエネルギーで断層幅が厚く、鮮明な映像。
- シャープな影像を結ぶ、鋭焦点(0.5×0.5mm)X線管。
- 患者位置づけは、正確で容易。
- 据付面積は最少 (1.07×0.995=1.06㎡)
- 重量は190kgの軽量。

J社 パノラマX線装置 ベラビュー 標準価格 ¥2,600,000 昭和56年2月20日現在



株式会社 **モリタ** / 東京都台東区上野2丁目1番13号 〒110 ☎(03)834 6161 / 大阪・吹田市垂水町3丁目33番18号 〒564 ☎(06)380 2525  
 北海道☎(011)742-3507・名古屋☎(052)741-5461・京都☎(075)241 3131・瀬田町☎(06)251 2525・広島☎(0822)91 3531・福岡☎(092)411 9162・北九州☎(093)921 5388  
 盛岡・仙台・新潟・横浜・静岡・岐阜・金沢・滋賀・宇治・宮津・和歌山・田辺・神戸・岡山・米子・高松・徳島・熊本・長崎・鹿児島  
 株式会社 **モリタ製作所** 京都市伏見区東店南町680番地 〒612 ☎(075)1611-2141 京都府久世郡久御山町大字市田小学新珠城190 〒613 ☎(0774)43 7555  
 株式会社 **モリタ東京製作所** 埼玉県与野市上落合355 〒338 ☎(0488)52-1315

(KIK姉妹品)

歯科用金属焼付ポーセレン用メタル ケイ・アイ・ケイ・ハード  
**KIK HARD II**

DENTAL USE

重量10グラム

ISHIFUKU METAL INDUSTRY CO.,LTD.

金属焼付ポーセレン用金合金

# KIK HARD II

- 硬度が210Hvと硬く、長いブリッジ・うすいクラウン等にも最適です。
- 流動性が優れており容易に鑄造できます。
- 焼成回数を重ねてもメタルの変形はほとんどありません。

主成分 金73%・銀2.8%・白金13%・パラジウム9.7%

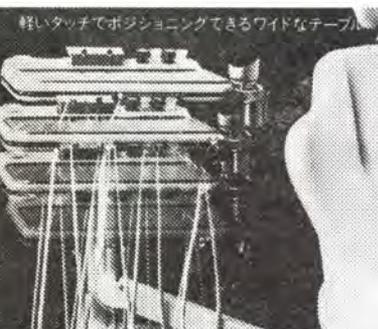
諸性質 ● 溶融温度1240~1290℃ ● 比重17.8 ● 鑄造収縮1.34

|       | 硬度Hv | 引張強さ kg/mm | 伸び% |
|-------|------|------------|-----|
| 鑄造時   | 180  | 44         | 5   |
| グレース時 | 210  | 46         | 5   |
| 硬化時   | 225  | 48         | 4   |

KIKポーセレンの他VITA・CERAMCO等のポーセレンに使用できます。

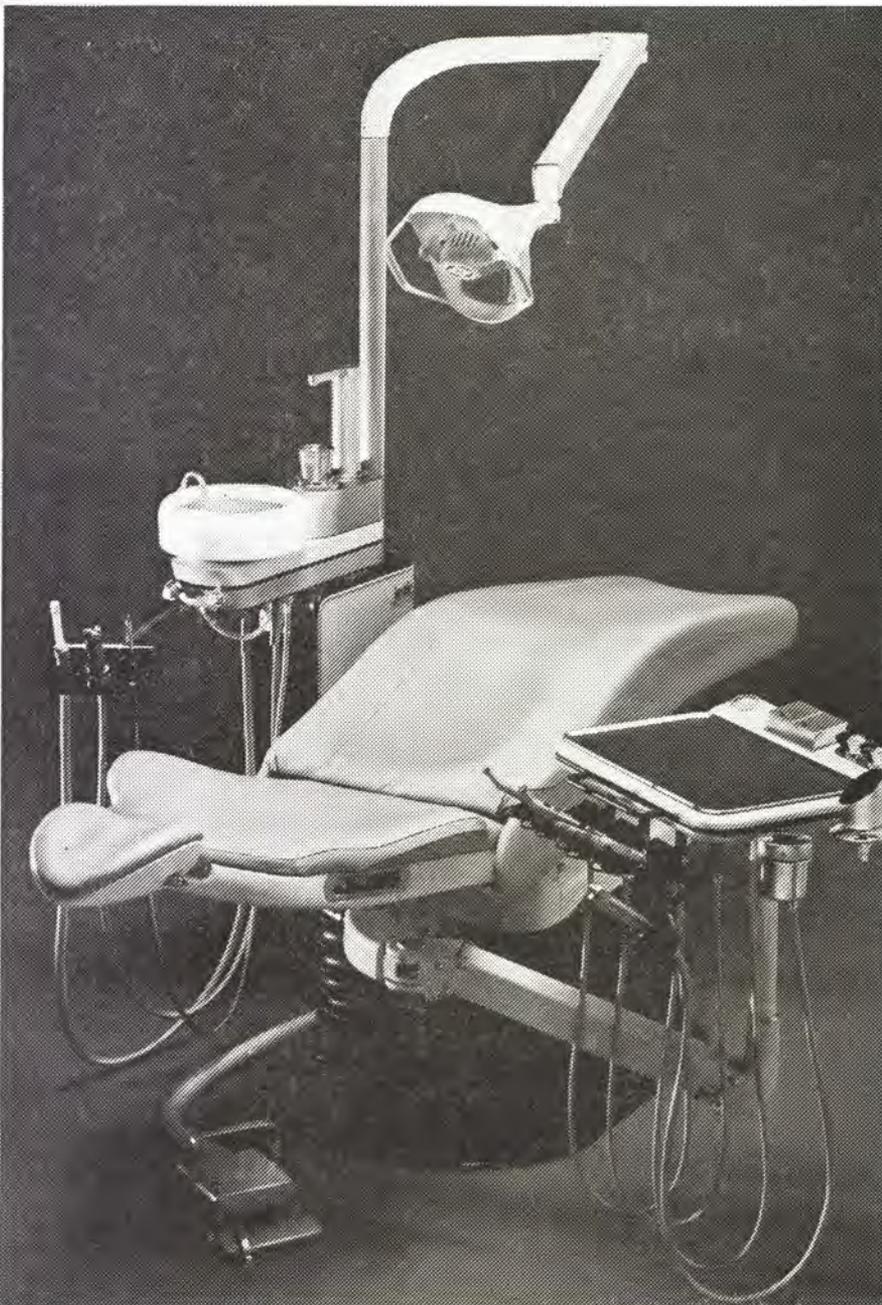
石福金属興業株式会社

# 未来を先取りした シンプル&ハイアビリティ



軽いタッチでポジションニングできるワイドなテーブル  
ジャスティック  
**justic**

「シンプル&ハイアビリティ」ジャスティックでは、ムダなデコレーションを一切廃しました。人間の自然なフォルムから考え出された、シンプルなオールマイティチェア。診療空間をよりスッキリさせた、ワーキングテーブルのアンダーアーム。どの機構にも、理想的な診療形態を創造するためのシンプル化がなされています。そして、何よりも患者への圧迫感や恐怖心を和らげました。たとえば、アンダーアームひとつとってみても、ドクターに診療しやすいポジションを与えるだけではなく、ワーキングテーブルを患者の視界から外すことにより、心理的圧迫感を与えません。といっても、私たちは「シンプルイズ・ザ・ベスト」だとは考えていません。ムダな部分を省くと同時に、より効果的診療を可能にする数多くのディテールをグレードアップ。「シンプル&ハイアビリティ」こそまさに、ジャスティックの一貫した思想です。



株式会社 **ヨシダ**

〒110 東京都台東区上野7-6-9  
TEL.03-845-2911(代)

資料請求券

GC

ナノメートル

## nmファイラーの

(ナノメートル:メートルの $10^{-9}$ ミクロンの1000分の1を表わす)

## シクロレスト新発売



超微粒子ファイラーの威力は、  
充填面のなめらかさに歴然です。

従来、一般に先生方がお使いのコンポジットレジン、約30ミクロン程度のガラスファイラーを使っています。マイクロレストのシリカファイラーは、なんとその1000分の1。0.02~0.03ミクロンという超微粒子です。従って、その差は歴然。重合面が違、研磨面が違、磨耗面が違——すべてに緻密で均質なマイクロレストの優位性が現われるのです。その他、吸水性の極めて少ない特殊な疎水性モノマー、辺縁封鎖性抜群のボンディングシステム等、特長様々。これらはプラークの付きにくい滑沢な表面と相まって、美しさをいつまでも失わない、優れた充填を約束します。いかがですか——今日からマイクロレスト。

超微粒子ファイラー修復材●シリンジタイプ

## マイクロレスト《マイクロシリンジ》

近日発売

超微粒子ファイラー修復材 ● ジャータイプ  
マイクロレスト  
《マイクロジャー》

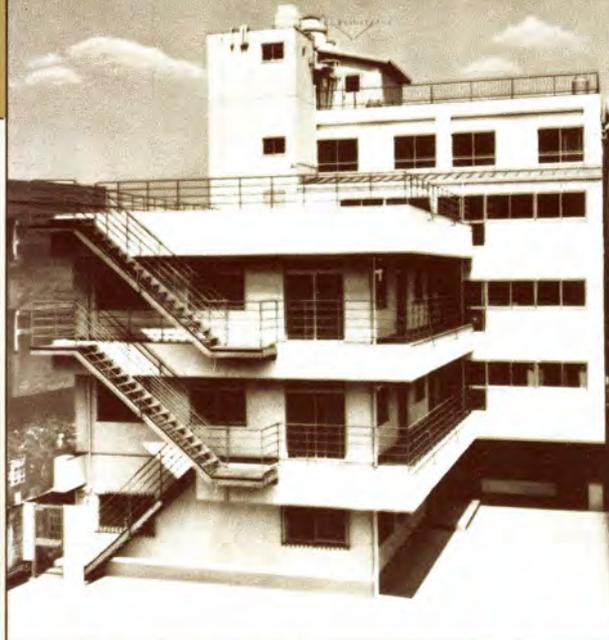


而至歯科工業株式会社 デンタルインフォメーションセンター G-C DIC  
〒113 東京都文京区本郷3-2-14 Tel.03(815)1511 ●東京DIC 03(816)6480(直)

お問い合わせ先 ●北海道DIC 011(271)7373(代) ●東北DIC 0222(71)8757(代) ●名古屋DIC 052(703)3231(代) ●大阪DIC 06(771)4682(代) ●広島DIC 0822(55)1771(代)  
●九州DIC 092(441)1286(代) ●新潟出張所 0252(84)6622 ●徳島出張所 0886(25)8244 ●長崎出張所 0958(47)6104 ●鹿児島出張所 0992(68)0070

# 歯科技工学科

理事長 歯学博士 大塚 昌助  
 校長 歯学博士 大塚 弘介  
 顧問 東京歯科大学学長 松宮 誠一



## 東京歯科技工専門学校

TOKYO DENTAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

〒141 東京都品川区西五反田5-1-10(東急目蒲線不動前徒歩2分) TEL 03(492)4221(代)

### 画期的な新製品の御案内

金を含有しない経済的でゴージャスな陶材焼付用セミプレシャスメタルの決定版

## 歯研パイロン

パラジウム・銀系  
 セミプレシャス  
 陶材焼付用合金

### 特 長

- ❶ 溶着力はゴールドボンディングエイジェントとの効果が相乗するので、従来品に比べて極めて優れています。
- ❷ 歯頸部や肉薄の部分の色調(色相、彩度)は、指定通りに再現され自然感を失わず、審美性に優れています。
- ❸ 比重がプレシャスメタルの2/3ですから、フルマウスで10g以下という驚異的な軽さで、一歯当たり0.5g以下も可能です。
- ❹ 適合性、铸造性、機械的性質が何れも従来品(Pd-Ag系)よりも優れています。
- ❺ 金を含有していないにもかかわらず組織親和性に優れています。
- ❻ 前ろう、後ろうが共に容易です。
- ❼ 陶材を選びません。ヒタには特に適しています。
- ❽ 熱膨張ヒステリシスが小さいので焼成後のメタルの変形がほとんどありません。
- ❾ 切削や研磨等の作業が容易で仕上りも優れています。
- ❿ 廉価でしかもメタルの再融解も可能ですから極めて経済的です。
- ⓫ 焼成後の酸化物の色が灰白色です。
- ⓬ 口腔内で全く変色しません。
- ⓭ ワンピースでキャストできるので後ろうをせずにメタルボンドと硬質レジン、あるいはフルクラウンとの組合せができます。
- ⓮ 铸造体からのガスの発生はほとんどありません。

歯研パイロン  
 関連材料

●歯研パイロン…10g ●ゴールドボンディングエイジェント…2g ●ゴールドボンディングエイジェント希釈液…5cc ●黒鉛台…5枚セット ●PKろう「前ろう」…2g

スターターキット

●歯研パイロン…10g ●ゴールドボンディングエイジェント…1g ●ゴールドボンディングエイジェント希釈液…5cc ●黒鉛台…1枚 ●PKろう「前ろう」…0.5g

## 新 発 売



「歯研パイロン」研修会のお知らせ  
 新製品「歯研パイロン」の優れた特性と技工の実践を  
 ご紹介するため、研修会を開催しております。  
 詳細については、下記へお問合せください。  
 日本歯研工業株式会社  
 「パイロン」研修会係  
 03-492-0927



## 日本歯研工業株式会社

本 社：〒141 東京都品川区西五反田5-1-10 ☎03(492)0927(代)  
 支 社：〒553 大阪市福島区海老江1-5-67 ☎06(458)7071(代)  
 上野営業所：〒101 東京都千代田区外神田6-10-6  
 吉岡歯材ビル2F ☎03(831)7031・7033